

2019年度 休眠預金活用事業

「退所者フォローアップ支援」 事後評価報告書

【実行団体】 更生保護法人ウイズ広島



人はみな、
生かされて
生きてゆく。



更生保護ネットワーク

【資金分配団体】 更生保護法人 日本更生保護協会

資金分配団体事業名 | 安全・安心な地域社会づくり支援事業
事業の種類 | 草の根活動支援事業

1. 事業概要 p.2

実行団体概要 / 助成事業概要
助成事業ロジックモデル

2. 事後評価実施概要 p.4

- (1) 実施概要
- (2) 実施体制

3. 事業の実績 p.7

- 3-1 インプット
- 3-2 活動詳細と支援事例
- 3-3 活動とアウトプットの実績
- 3-4 外部との連携の実績

4. アウトカムの分析 p.23

- 4-1 アウトカムの達成度
 - (1) アウトカムの計画と実績
 - (2) アウトカムの達成度についての評価
- 4-2 事業の効率性
- 4-3 成功要因・課題

5. 考察 p.31

事業全体を振り返っての考察
(その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓)

6. 結論 p.33

- 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 6-2 事業実施の妥当性

7. 資料 p.34

1. 事業概要

実行団体

更生保護法人ウィズ広島

団体概要

更生保護施設として継続保護事業、一時保護事業及び収益事業を実施している。施設利用者に対し、一定期間宿泊や食事の提供、就労支援及びSST等さまざまな処遇や支援を実施している。また、一時保護事業として、施設退所者に生活相談、カウンセリングなど退所者フォローアップ支援事業を行っている。



解決を目指す 社会課題

更生保護施設に受入れる刑事施設出所者等は、身寄りがなく、広島に地の利のない人も多い。それらの人は、当施設退所後、施設近隣に住むことが多く、その退所者の多くは一人暮らしで、不安や悩みを相談する人はほとんどなく、日々孤立感にさいなまれた生活を送っている。刑事施設出所者等の再犯の背景には、このような不安、悩み、孤立感を抱いた生活がある。

助成事業

事業名

退所者フォローアップ支援

事業概要

更生保護施設退所者への生活相談及び居場所づくり等の拡充。生活相談はフォローアップ支援員、補導職員による対応、心理専門家によるカウンセリングと、退所者が退所後も更生保護施設を第2の居場所とするように各種カフェを定期的に開催する。

実施期間 | 3年(2020.3~2023.3)

対象地域 | 広島市及び近郊

支援対象 | ウィズ広島 退所者

事業終了時の 展望 (当初案)

助成事業が終了しても、現在の事業は継続する予定。本事業の中核となる推進者は支援員と補導員であるが、今後は、退所者フォローアップ支援と訪問支援事業と統合して、この事業を拡充していく。

中期
アウトカム

更生保護施設ウィズ広島を自立退所した刑務所出所者等に、「自分は一人ではない」といった意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活することができる。

短期
アウトカム

01

退所者の不安や悩みが軽減され、自分の問題に気づき、抱えている悩みが解決する。

02

この支援事業を通して、困った時にはウィズ広島に相談できるという安心感、及び地域の人々（参加ボランティア等）との交流ができ、地域につながる心的な安定が得られる。

アウトプット

0101

フォローアップ支援員の生活相談を受けられる状態になる。

0102

退所者のうち、精神的に課題の大きい人が、心理専門家による継続的にカウンセリング支援を受けられる関係になる。

0201

3つのカフェのいずれかに定期的又は不定期にでも参加できるようになる。

活動

専従するフォローアップ支援員が、退所者が来訪時に生活相談を実施する。一方で、来所しない退所者へ電話、手紙、訪問によって生活相談を行う。

必要かつ同意がある退所者への専門的心理カウンセリングを継続的に実施する。

ウィズ広島を自立退所した人を対象に、退所後もウィズ広島に足を運びやすくするためのカフェを定期的に開催する。

2. 事後評価 実施概要

(1) 実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

更生保護施設を自立退所した人が、困りごとや悩みごとなどを支援員や補導職員に相談し、またカウンセリング支援によって不安や悩みが軽減し、精神状態も安定し日々安心して、再犯することなく地域の一人として社会に溶け込んでいくことを目的としている。

② どんな調査で測定したのか

		01	退所者が、不安や悩みが軽減され、自身の問題や課題に気が付き、抱えている課題が解決する。
短期 アウトカム 01の評価	指標		①(広島県内に在住する)退所者のうち、フォローアップ支援につながっている人の割合 ②支援を受けている人のうち、「来て良かった」など肯定的に感じた人の割合 ③支援を受けている人のうち、悩みや不安の少ない者の割合 ④支援を受けている人のうち、抱えている課題が解決している者の割合 ⑤支援を受けている人のうち、頼れる人・場所があると感じる者の割合 ⑥支援を受けている人の再犯率(職員が把握した範囲内とする)
	(1) 調査方法	【 定量調査 】	②,③,④,⑤ フォローアップ支援についてのアンケート調査(主な項目:問1-1~2 ウィズ広島に来た理由・気持ち/問2-1~4 支援が役に立ったか/問3-1~4 悩みや不安、自身の課題(わるいところ)について/問4-1,4-5 頼れる人がいるか・誰か)
	(2) 調査実施時期		2022年7月~2022年12月
	(3) 調査対象者		事業対象者266人のうち、(2)の期間中にウィズ広島に来所した人に調査協力を依頼し、回答を得られた40人(実施率15%/回収率100%)
	(4) 分析方法		問3-1,2はt検定、問3-3,4は単純集計を行なった。
	(1) 調査方法	【 定量調査 】	①,⑥ 支援記録 集計
	(2) 調査実施時期		2020年4月~2022年12月

② どんな調査で測定したのか

	02	退所者が、困った時にはウィズ広島に相談できるという安心感を得て、地域の人々（参加ボランティア等）との交流ができ、心的な安定が得られるようになる。
	指標	<ul style="list-style-type: none"> ①継続的に（3ヶ月以上）カフェに参加している人の数 ②カフェ利用者のうち「地域の人との交流がある」と回答した者の割合 ③カフェ利用者のうち「この土地（広島）に愛着を感じる」とする者の割合 ④ピアサポーターになった退所者の事例
短期 アウトカム 02の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期	【 定量調査 】 ① 支援記録 集計 2020年4月～2023年1月
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 ②,③ フォローアップ支援についてのアンケート調査（主な項目：問4-2 地域の人との会話や交流があるか / 問4-3 今住んでいる地域が好きか） 2022年7月～2022年12月 事業対象者266人のうち、(2)の期間中にウィズ広島に来所した人に調査協力を依頼し、回答を得られた40人（実施率15%／回収率100%） 問4-2,4-3はT検定を行った。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者	【 定性調査 】 ④ 支援員によるエピソード記述 2020年4月～2023年1月 ピアサポーターになった退所者4人のうち、調査に協力が得られた1人のエピソードを記述。

③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

退所者フォローアップ支援事業が退所者にどのように理解されているか、どのような変化が生じているかを検証するために専門家の助言を受けてアンケートを作成し、フォローアップ支援員が、ウィズ広島に来所した退所者に聞き取り調査を行った。

調査の概要は、別紙「ウィズ広島・休眠預金事業アンケート（フォローアップ支援）」及び別紙調査結果表を参照。

(2) 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	データ分析、全般の評価	山田 勘一	事業責任者
内部	インタビュー、アンケート調査の実施	白倉 弘子	支援担当者
内部	文献調査、報告書作成	嘉屋 進	事業担当者

3. 事業の実績

3-1 インプット（主要なものを記載）

項目	内容・金額	
(1) 人材 (主に活動していたメンバーの人数や役割等)	内部：合計4人（担当者3人）／ 外部：合計8人（専門家3人）	
(2) 資機材（主要なもの）	飛沫ガード（アクリル板）、不織布マスク、手指消毒キビキビ、フェイスシールド、住宅用空気清浄機、非接触式検温器	
(3) 経費実績 助成金の合計		
① 契約当初の計画金額	合計 10,097,540 円	事業費：9,730,040円（内訳 直接事業費：8,731,360円／ 管理的経費：998,680円） 評価関連経費：367,500円 コロナ対応緊急支援追加額：0円（内訳 直接事業費：0円／ 管理的経費：0円）
② 実際に投入した金額と種類	合計 11,097,540 円	事業費：9,730,040円（内訳 直接事業費：8,731,360円／ 管理的経費：998,680円） 評価関連経費：367,500円 コロナ対応緊急支援追加額：1,000,000円（内訳 直接事業費：1,000,000円／ 管理的経費：0円）
(4) 自己資金		
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計 2,432,540 円	
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計 2,432,540 円	
③ 資金調達で工夫した点		

フォローアップ&カウンセリング |

継続的な相談支援で退所後も関係をつなぎとめる

2020（令和2）年3月から休眠預金から支援を受けて退所者フォローアップ支援事業を始めた。その頃のウィズ広島には、退所した人が相談、報告を兼ねて1日5～6人が来所し、困りごとや悩み、喜びなどを話していた。

彼等彼女らの日々抱えている不安や悩み、一方で喜びなどを施設職員、支援員、ピア・サポーター、地域ボランティアに話せる場づくりを考え、始めたのが退所者フォローアップ支援である。

この事業の中心的役割を果たしているのが、2020（令和2）年4月に採用した白倉弘子退所者フォローアップ支援員である。白倉支援員の役割は、①ウオームアップ面接（退所後のフォローアップについて説明）、②通所相談（来所した退所者の生活相談、心理相談）、③家庭訪問（来所しない退所者の家庭訪問）、④電話による安否確認、⑤手紙による安否確認であるが、他にウィズカフェに関わり、とりわけピングカフェにおいては、ロスフード受け取りにスーパーを回り、退所者に配布できるよう準備をするなど、ピングカフェを任される存在となっている。

これまで、ウオームアップ面接、通所相談、カウンセリングで延べ4,789人の退所者生活相談等を受けているが、当施設が実施したアンケートに、退所者の80%が「頼れる人はウィズ広島の職員、ボランティア」と回答しているが、白倉支援員は、まさに退所者からは頼れる人である。



退所者の相談を聞く白倉支援員

ウィズにいるときから関係を温める

白倉支援員が向き合うのは主には施設退所者ではあるが、彼らがウィズ広島を退所する前から、白倉支援員の活動は始まっている。

入所者が出勤する際など、「いってらっしゃい、気をつけて」など声をかけ、短時間でもコミュニケーションを図ることを心掛けている。退所時には、四葉のクローバーを貼った手作りのカードに「応援しています」などのメッセージを添え、もう一枚のカードに、ウィズ広島の住所・電話番号・支援員の名前を書いて手渡している。その際には、改めてウィズカフェの案内をすると共に、退所後も相談に来所するよう伝える。

自由の身となった対象者が、退所後に自ら望んでウィズとつながるかどうかは、こうした入所中からの支援員の働きかけや心遣いによる効果が大いと思われる。



上：退所時に渡すカード
四葉のクローバーが貼り付けてある

下：誕生日カード
手書きのメッセージを添える

来所したらコーヒーを 来ない人にも安否確認の連絡を

退所者が来所したら、支援員等がコーヒーを出して来訪を歓迎し、近況や、困ったこと、嬉しかったことなどを聞き、生活相談にのっている。そして、カフェが月3回あること、いつでも遊びに来てよいこと、またピングカフェにはロス食品や寄付でいただいた服、食器などの「寄付物品があるよ」と声かけをし、来所しやすいよう配慮している。また、大きなものは訪問支援員が持っていきよと伝えるなど、訪問支援員との橋渡しにも配慮している。県外に退所した人、来所ができない事情の人には定期的に電話をかけるなど、こまめな声掛けをかかさずに続けている。

ボランティア・ワーク、ピア・サポーターという役割をつくる

ウィズ広島には、退所者が何らかの役割をもって施設と関わりを続けるための仕掛けとして、「ボランティア・ワーク」と「ピア・サポーター」という2つの制度がある。

「ボランティア・ワーク」は、施設に頻繁に出入りすることに気おくれする人に対し、ボランティア・ワークとして職員の仕事の手伝いを勧め、段ボールの整理や、施設玄関の清掃、カフェの案内状づくりなどをしてもらい、ポイント（1日/100円）還元をし、月末に現金を支給している。

「ピア・サポーター」は、カフェ運営スタッフとして、カフェに参加する職員や地域ボランティアと交わりながら、カフェの運営にかかる活動を行っている。約4か月に1回開くカフェの運営会議にも参加しており、こうした当施設OB・OGであるピア・サポーターの協力を得て、各種カフェが実施できている。参加するピア・サポーターにとっては、自らに役割があり継続的に参加できる場があることが、自己肯定感の回復にもつながっている。



ボランティア、ピア・サポーター、職員によるカフェ運営会議

ウィズカフェ | 退所者が地域の中で気兼ねせず立ち寄れる 数少ない集いの場

ウィズカフェには「抹茶カフェ」「カフェシアター」「カフェ・ビンゴ」の3つのカフェがある。この狙いは、ウィズ広島を退所した人が、退所後も施設に足を運びやすくするために、月1回定期的に開催している。今では、ウィズ広島職員、支援員に会いたい、生活相談をしたい、またカウンセリングを受けたいと思っている人たちをつなぐ集いの場となっている。

はじめのカフェは、2016（平成28）に誕生した「抹茶カフェ」である。3人のボランティアが抹茶をたて、それを参加者がワイワイしゃべりながら楽しむ会となっている。

抹茶カフェに次いで、新たなカフェを探していたところ、職員から、話が苦手な人も楽しめるカフェをやってみたいとの声が上がった。これが2020（令和2）年9月から始めた「カフェシアター」である。

次いで、ロス食品の寄付活動が続けている更生保護施設等支援協議会藤本晴男常務理事からの寄付を受けたのを機に、ロス食品を活用した「ビンゴ・カフェ」（当初名称、ロスカフェ）を2021（令和3）年3月から始めた。



ある日の抹茶カフェの風景

抹茶カフェ

抹茶カフェは2016（平成28）年に始めたが、当時のウィズ広島利用者は高齢で障害のある方が多く、働くこともできず、施設内で話し相手もなく、ややもすると一日中自室に引きこもるようになっていた。この生活スタイルを変え、集まってワイワイしゃべることができる会を作ろうとして、地域のボランティアのお茶の師範と、ピア・サポーター（元利用者）に協力を求めた。

開催は月1回、第3火曜日の午後2時から3時まで。参加者は、丸テーブルを囲み、抹茶とお菓子をいただきながら、お茶と会話を楽しんでいる。

*現在の参加者状況は、退所者と入所者が半々程度。



抹茶カフェで本格的なお茶を振る舞ってくださる
ボランティアのみなさん
右手前より、土井さん、小尻さん、佐藤さん

カフェシアター

カフェシアターのキャッチフレーズを、「会話の苦手な人でも参加できるカフェ」とし、ポップコーンとジュースで映画観賞をしている。退所者へのアンケート「ウィズの他にに行っている場所」との質問に対し42.5%の人が「何もない」と回答している。退所者にとって映画観賞は余暇の善用、また月1回程度心を動かす映画観賞は、彼らの精神衛生上にも意味があると言える。

*開催は月1回、第1日曜日午後1時から。参加者は退所者と入所者が半々程度。

BINGO&カフェ

近隣のスーパー、フードバンクから寄付を受けたロス食品や寄付物品を提供する「お土産」付きカフェ。退所者によるゲーム、職員による演奏等の後、ビンゴゲームでロス食品等を持ち帰るカフェ。

*開催は月1回、第4火曜日午後2時から約1時間。参加者は退所者のみである。



ある日のカフェシアターの風景



ある日のBINGO&カフェの風景

支援事例

退所後、兄とその彼女から心無いことを言われ続け、支援員に救いを求めたCさん

Cさんは、間違っていると思うことはすぐに口に出してトラブルになることもあるが、言いたいことを言ったあとは根に持つことは無い、あっさりした性格の女性。兄と2人兄妹で、退所前は兄が近くで住むように言ってくれて安心だと話していた。

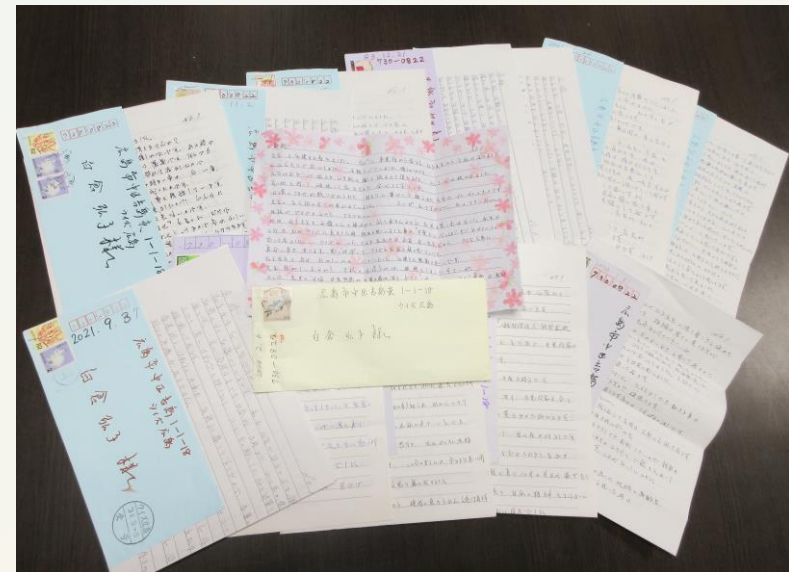
退所日には、兄とその彼女が車で迎えに来て、兄の準備した、県外の兄の家近くのアパートまで送ってくれた。その後も兄と彼女は頻りにCさんを訪ねてくれたが、次第にこれまでの恨みを口にするようになり、土下座を強要されることもあるなど、Cさんは精神的ダメージを受けるようになった。さらに兄の彼女は、Cさんの犯罪歴を兄から聞いていたのか、本人を軽蔑する言葉を投げつけるようになり、Cさんはますます落ち込んでいった。

その頃から支援員に電話をかけるようになったCさんから、「死にたい」との言葉が出ることもあった。電話ばかりでなく、手紙を支援員に送ってくるようになった。やりとりを続けるなか、Cさんが兄と少し距離を置いたこともあり、喧嘩の回数は徐々に少なくなっていった。

一人で家には悪いことばかり考えてしまう、と自ら気付いたCさんは、市役所に相談し、B型作業所に通うことになった。作業所に通い始め、兄との距離を置いていたが、それでも時々会う兄から心無い言葉を言われるなどで、「生きる価値がないのでは」と思うこともある、と電話口で話すCさん。手紙には、「支援員と連絡が取れなくなったら、支援員がどんなに心配するだろうか、離れていても今でも心配してくれている人を裏切ってはいけなく、お金を貯めて会いに行くことを目標に毎日生活をしている」としたためていた。

ある日曜日のカフェシアターに、Cさんが来所した。貯めた貯金から交通費を捻出し、県外からはるばる訪れた。久しぶりの支援員との再会を、涙を浮かべて喜び、必ず貯金をしてまた会いに来ると約束した。

支援員は毎月一度の電話と手紙は、今後も継続することを約束し、直近の手紙に「作業所以外に日々の生活に楽しみを見つけ、生きていく意味を多く見つけてください」と記した。



Cさんから届いた手紙の一部

ボランティア・ワークの事例

流れ着いた広島で、老人ホームの待機登録をしたAさん

Aさんはウィズ広島在所期間3か月の70代男性、施設退所後3年が過ぎている。Aさんは、年金が入ると賭けマージャンに使い、生活が出来なくなると、無賃乗車、無銭飲食を繰り返してきた。このたびは保護された北海道の施設を抜け出し、無賃乗車し下車した広島で保護され、ウィズ広島に入所した。

ウィズ退所後、年金だけでは生活ができないため、ロス食品の提供を受け生活した。しかし、人と交わることが苦手でデイサービスには行きたがらず、ついつい雀荘に通ってしまうと述べる。ウィズ広島でのボランティアを勧めると快諾し、不用な段ボール整理のボランティア・ワーク、カフェにも参加している。

Aさんの今後の生活を考え、Aさんの住まいがある地域包括支援センターにつなぎ、地域包括支援センター支援員とAさんとで老人ホームの施設見学に行き、入居予約をした。待機者が複数いるので入居は3年待ちだが、それまではウィズ広島に通い、ボランティア・ワークをし、カフェに通いたいと述べている。再犯はしていない。



不用な段ボールを整理するAさん

カフェへの声掛けと訪問支援で、安定してきたBさん

Bさんは、中学卒業後自衛隊に入隊した。しかしながら、厳しい訓練といじめにより1年足らずで離職、その後は実家に引きこもる生活を続けてきた。障害年金で暮らしていたが、万引きを繰り返した。このたびは賚銭900円を盗んで刑の執行猶予を受け、受刑したものである。

Bさんは寡黙な人で、自分から人に話しかけることはなかったが、支援員や担当補導員の声かけに、徐々に心を開いていった。

退所する日が近づいたころから、カフェ、生活相談に来所するよう働きかけ、尻込みするBさんの背中を押し続けた。生活保護を受け広島市内のアパートで一人暮らしを始めた直後に、支援員がBさんのもとを訪ね、相談に乗る中、気軽に来所するように声をかけ続けた。このような働きかけの甲斐あってか、現在は週に2日ほど来所し、コーヒーを静かに飲み、カフェにも参加している。さらに、カフェに使用する折り紙を作るなどのボランティア・ワークも行っている。ウィズ広島入所当初からは想像できないほど他人と話ができるようになり、現在は訪問支援員の訪問を受けながら、精神的に安定した生活を送っている。

Bさんはアンケートに「現在はウィズのOさんや他の人たちとも話をする。ウィズに来る前は一人だったので、悪いことを考えていた」と記している。



カフェに使用する折り紙を作るBさん

ピア・サポーターの事例

障害を乗り越えて生活が安定し、次の一步を踏み出そうという直前に万引きしてしまったDさん

Dさんは、睡眠障害、摂食障害がある上に、対人恐怖症のため顔をあげて話すことができず、また電車やバスなどの移動手段が利用できないため、外出するのも困難な人であった。

在所中のカウンセリングでは、当初、支援員が同席していたが、1年後には、1人で受けることができるようになった。

退所後、一人暮らしを始めたが、孤独から再犯しそうだとの相談を受け、支援員が来所を勧めるが、「朝起きられない」「家から出るのが辛い」ので、一日中布団の上で過ごし、水分も摂っていないと体調不良を訴える。

Dさんに辛抱強くカフェの準備、ロスフード、寄付物品を整理する楽しみを話し、手伝いを依頼していたところ、少しずつ来所ができるようになった。

寄付でもらった服でコーディネートして着る楽しみを覚えたためか、「外出したら調子が良い。眠ることが出来る」と口にするようになり、B型作業所に通いたいと申し出た。毎日午前9時に来所すること、何か食べてくることを約束し、ロスフードの整理や掃除などを通して日に日に自信をつけていき、支援員の出勤日にはウィズ広島に来るようになった。

カフェの準備で他のピア・サポーターと知り合い、協力しての作業、作業後の一緒にの食事、さらにはカフェ支援会議にも参加し、発言も出来るようになった。カフェの受付、検温、消毒、参加者への案内もでき、作業が午後もあるときには、手弁当を持参したり、ピア・サポーター仲間と弁当を買いに行ったりもしていた。数年ぶりにお化粧もするようになった。近くのB型作業所を一緒に探し、見学予約まで出来た。作業所に通うようになって毎日ウィズ広島に来て、話や作業などがしたいと述べていたが、作業所見学日が決まった数日後、ウィズ広島に来所せず、携帯の電源も切れており連絡がつかない事態となった。

自宅を訪ねたが不在。自宅近くの交番にDさんの安否確認をしたところ、名前ですぐに分かったらしく、警察官から「詳しくは言えない」と伝えられ、残念ながら再犯をしたことが分かった。ウィズ広島からの帰り道にあるコンビニで、蕎麦など盗んだ様子だった。まだ見学の段階ではあったが、作業所へ通うという環境変化の予兆が、Dさんの心理に大きな負荷となったのかもしれない。

先日面会2回、差し入れを2回した。今後も応援していくことを伝えるため、手紙と面会を続けている。



ビンゴゲームの景品を笑顔で手渡すDさん

カウンセリングによる心理面の支援

ウィズ広島のカウンセリングの始まりは、1996（平成8）年になる。最初のカウンセラーは、元家庭裁判所調査官と元保護観察官の2人であった。その後、カウンセラーの交替はあったが、現在まで途切れることなく利用者に対してのカウンセリングを行っている。

このたびの事業の開始前は、村上正人カウンセラー1人の体制であったが、新たに2人のカウンセラーに依頼し、3人体制として退所者フォローアップ支援のカウンセリングを始めた。

この活動では、ウィズ広島在所中から、継続的なカウンセリングの必要性があると判断した人（不安の強い人、覚せい剤後遺症のある人、精神疾患を抱えている人等）をカウンセリングし、退所後もカウンセリングを受けるよう働きかけた。

長期間服役した人、精神疾患を抱えている人のほとんどを、3人のカウンセラーが担当し、彼らの話すことに共感を交えて傾聴し、その中で彼らの不安や、悩み、その解消に向けたカウンセリングを行ってきた。

本事業期間中は、新型コロナウイルス感染が広がり、カウンセリングも数か月中止したこともあった。そのような中、空気清浄機の設置や、外気を入れるため入室ドアを少し開けるなど環境を整えながら、面接を再開していった。



横山カウンセラーによるカウンセリング風景

カウンセリング支援事例

退所者フォローアップの必要性（カウンセラー 塩谷亜子）

37年間服役していたAさん。初めてカウンセリングに来た時はとても恐縮した感じで、こちらが気に入るであろう言葉を瞬時に探しているのが垣間見えた。長い間に身に付いた自己防衛のすべであろうと思った。外での暮らしが現実となると感謝の気持ちで一杯になる。まだ周りがあまり見えていない時期と言える。施設で出される食事や、自分の思う時間に入れるお風呂といった小さな日常も新鮮に思えるだろう。しかし人間とは、ないものねだりの生き物である。新しい環境に慣れてくると、次の新しい未来の環境に思いをはせる。それが不平不満につながっていく。

総合的に考えて、出来る限り施設で生活していこうと面会に来た親族とも話し合っただけで納得したはずなのに、結果的に、Aさんは施設を出て一人で暮らしていくことになった。

なかなか思うような物件は見つからなかったようだが、Aさんは自分の城を持った。そこからは退所者としてのカウンセリングの始まりとなる。自由と引き換えに生活習慣の乱れや人間関係のトラブルが増えた。カウンセリングにはいつも悩みを抱えてやってきた。どうやって解決すればいいか、自ら気付いてもらえるよう一緒に考えるという作業をする。その一体感は寂しさを一瞬和らげる効果がある。悩みがなければカウンセリングに来れないというのではなく、世間話でもいいと思う。こんなことがあったという話を誰かと共有することが、孤独にさせないツールの一つだと思う。

特に年齢を重ねた男性は女性に比べて引きこもり傾向にある。だから、自宅から外に出す理由付けにカウンセリングは役に立つと思う。本人の意志とは関係なく「仕方ない、行ってやるか。」でも大いに良いと思う。

Aさんは、いろんな問題がある程度解決した時、もうカウンセリングにも施設にも来ることはないと言った。今度は私が不安になった。なぜならカウンセリングは退所者にとって一人にさせないという目的もあるからだ。結局、Aさんはその後もカウンセリングの予約を入れてくれている。

最後に、私は加害者のカウンセリングをしているつもりはない。同じ人間のカウンセリングをしている。今は誰にとっても厳しい世の中であると思う。だからこそ、孤独感の緩和のためにも、カウンセリングを通じてフォローアップのお手伝いが出たらと思っている。



塩谷カウンセラーによるカウンセリング風景

カウンセリング支援事例

サポート連携で広がる立ち直りの機会 (カウンセラー 村上正人)

Yさんは生きづらさから引きこもりと過食、そして食品の万引きを繰り返した。窃盗の累犯で3度刑務所に入ったが、2度目までは父親のもとに帰ったものの再犯が収まらず、3度目は自立を期して当施設への入所を選んだ。

入所後は毎週カウンセリングを受け、生活態度も真面目で、お手本のような3か月を過ごした。しかし、立ち直れるという手応えはなく、自分自身が信じられない毎日に変わりはなかった。後になって振り返ると、突然沸き起こる過食の衝動は自身の仮の姿であり、理性的な真の自分は別にあるという思いで頭が一杯であった。それゆえに、仮の自分に掛けるお金は無用であり、万引きして手に入れようという思いに駆られていったようだ。

不安を抱えたまま退所する際に、市の自立相談支援機関である『くらしサポートセンター』を紹介して、連携することにした。Yさんにとっては、当施設以外に繋がった新たな場所である。そこの相談員が勧めた就労支援を通じて、介護施設の職員募集があることを知り、自身の判断で応募した。ほぼ同時に受けた知能検査の結果、仕事の手際とチームワークに弱みが認められたが、採用され、温かく迎えられた。

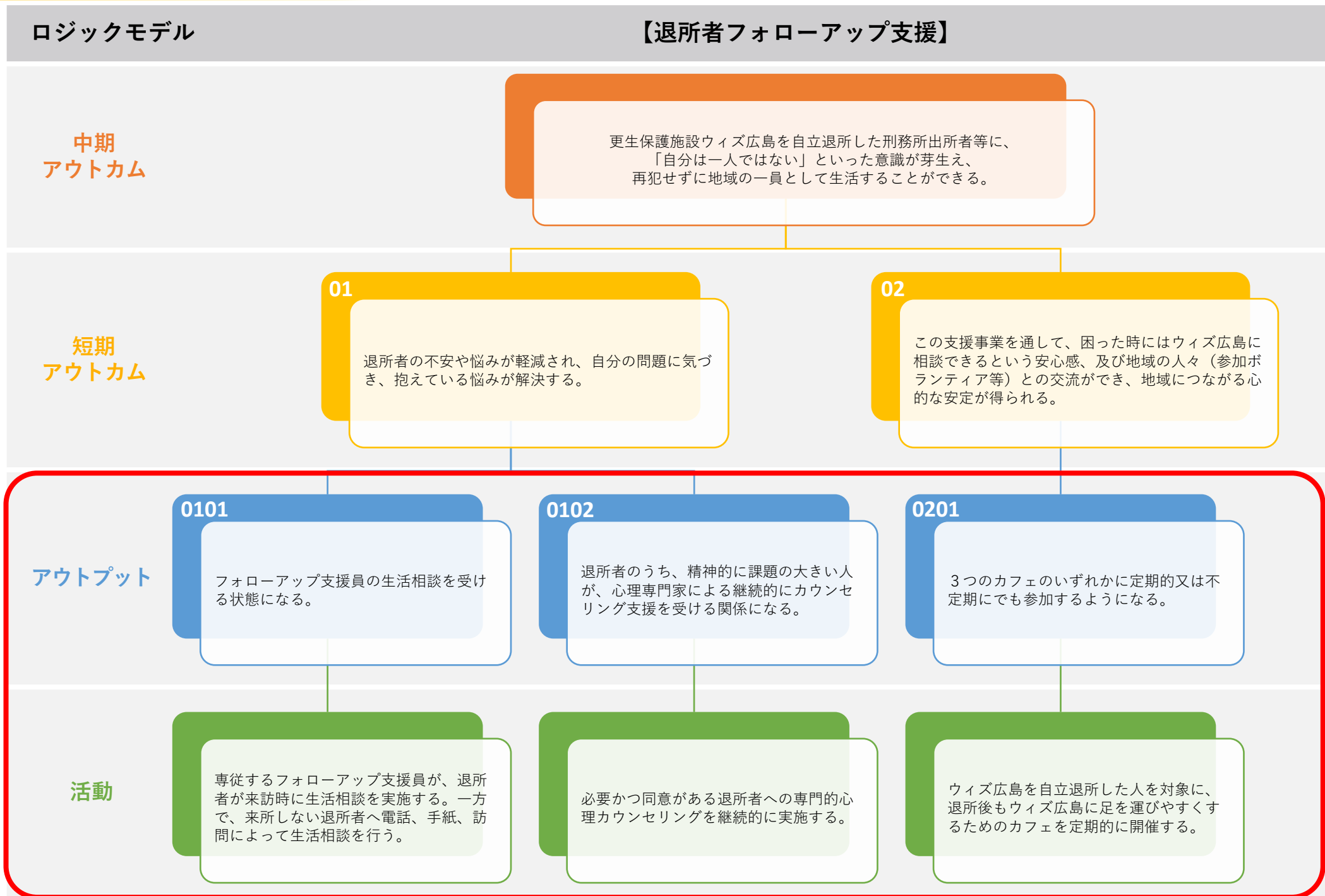
この職場がYさんにとって大きな転機となった。仕事の手順がなかなか覚えられず、すぐに忘れてしまう弱点を職場仲間は理解してくれ、根気よく何度も声を掛けてくれた。他方、Yさんにとって配膳前に必要とされる試食が大きな壁となった。摂食障害にありがちだが、食べる様子を他人に見られるのは苦痛の極みであり、また味付けに強いこだわりがあったため、化学調味料をしばらく受け付けなかった。ところがYさんは周囲の理解に支えられ、この職場を逃げ出すことをしなかった。

この間、カウンセリングから遠ざかったことは何度もあるが、くらしサポートセンターと当施設からの助言を得つつ3年間勤めた末、ステップアップに繋がる免許を取得することができた。図らずも職場での勤めが認知行動療法的な効果をもたらし、今では職場仲間と会食が出来るほど回復し、頑固なこだわりもいつしか綿菓子のように溶けて消えてしまった。併せて過食と万引きの衝動も、ほぼ思い出せないほど遠のいた。

もし、「あなたには向かないから、その職場は止めておきなさい」と助言していたとしたら、Yさんの自立回復はなかったかもしれない。複数のサポートと繋がることで安心が増し、事態が好転するチャンスも増すことを、Yさんは教えてくれたのである。



村上カウンセラーによるカウンセリング風景



3-3 活動とアウトプットの実績

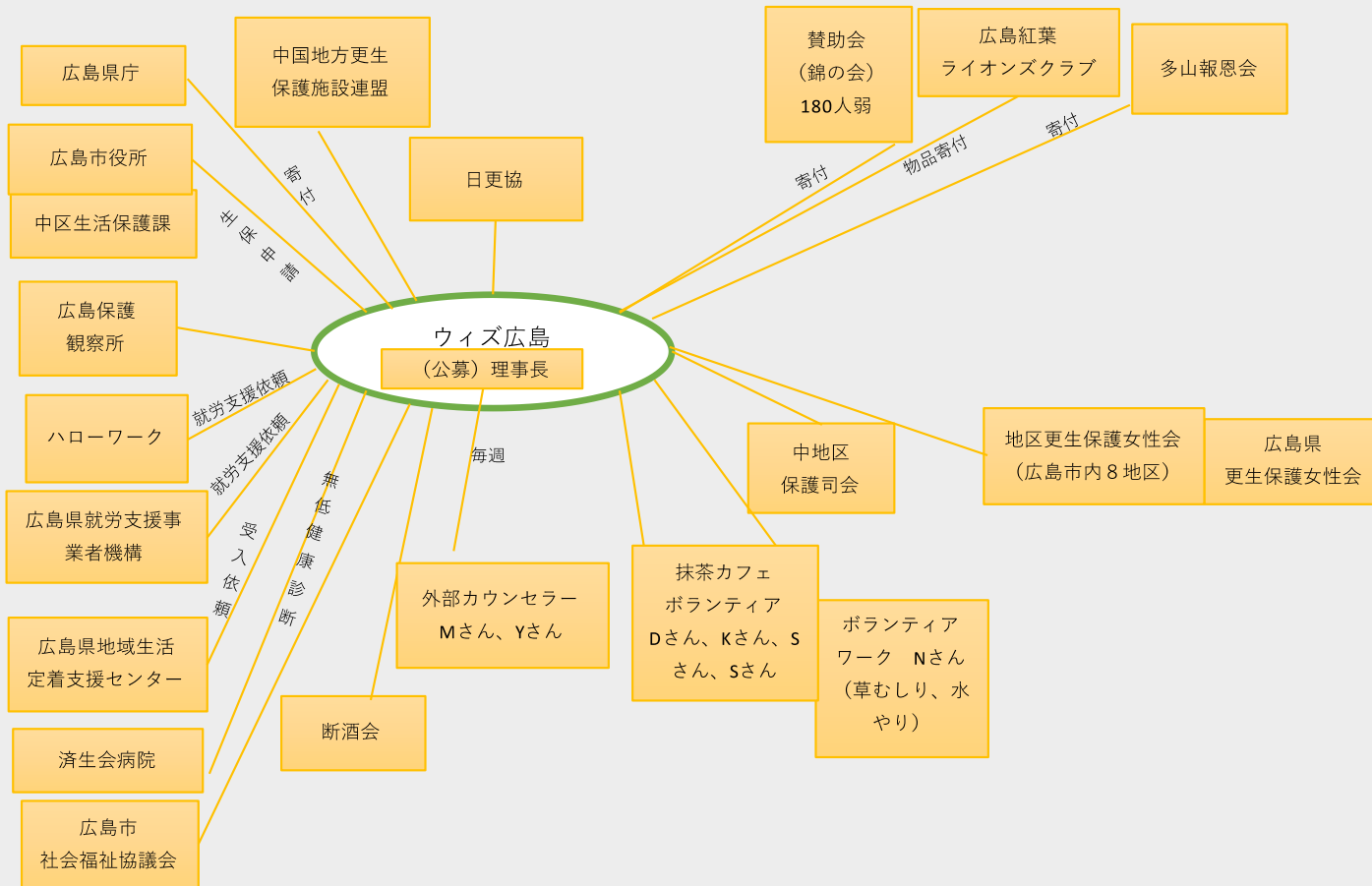
アウトプット 0101	アウトプット フォローアップ支援員の心理生活相談を受ける状態になる。 目標達成時期 2023年1月																	
主な活動（概要） フォローアップ支援員が退所者来訪時に心理生活相談を実施する。来所しない退所者へは、訪問して心理生活相談を行う。																		
指標	初期値	目標値	実績値															
①退所後に、フォローアップ支援（心理生活相談）を受けた人の数	①月平均70人	①月平均100人 (初期値より30人増)	①月平均：約117人 【目標値達成】 2020年4月～2023年1月間（34か月）の相談人数は延3,993人。 内訳は支援員延べ3,108人、補導員延べ885人。 これは支援員が相談等の際、代わりに補導員が相談を受けた人数。															
②退所前に、予備面接をした人数	②0人	②月平均20人 (延べ人数)	②月平均：約19.4人 【目標値未達成】 <table border="1" data-bbox="1214 665 1877 940"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>延べ人数</th> <th>月平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2020年4月～2021年3月</td> <td>269人</td> <td>22.4人</td> </tr> <tr> <td>2021年4月～2022年3月</td> <td>267人</td> <td>22.2人</td> </tr> <tr> <td>2022年4月～2023年1月</td> <td>125人</td> <td>12.5人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>661人</td> <td>19.4人</td> </tr> </tbody> </table>	期間	延べ人数	月平均	2020年4月～2021年3月	269人	22.4人	2021年4月～2022年3月	267人	22.2人	2022年4月～2023年1月	125人	12.5人	合計	661人	19.4人
期間	延べ人数	月平均																
2020年4月～2021年3月	269人	22.4人																
2021年4月～2022年3月	267人	22.2人																
2022年4月～2023年1月	125人	12.5人																
合計	661人	19.4人																
アウトプット 0102	アウトプット 退所者のうち、心理生活面で課題の大きい人が、継続的な（半年ないし1年程度）カウンセリング支援を受けている。 目標達成時期 2023年1月																	
主な活動（概要） 必要かつ同意した退所者へのカウンセリングを継続的に実施する。																		
指標	初期値	目標値	実績値															
カウンセリング支援を受けた人の数	月3回実施、 平均延 20人	40人 初期値より 20人増	月平均：約48人 【目標値達成】 2020年4月～2023年1月間のカウンセリング数は1,645人。 内訳は、カウンセラー面接421人、支援員面接1,224人。 前記のとおり、支援員の生活相談を受けた人数は3,108人であるが、その内1,224人は、面接時間が30分を超え内面に焦点を当てた面接を行っているので、これをカウンセリングと認め計上した。															

アウトプット 0201	アウトプット 3種類のウィズカフェに定期的又は不定期に参加し、居場所を確保している。 目標達成時期 2023年1月		
	主な活動（概要） 退所者との交流を深め、地域につなぐカフェを定期的に開催する。		
指標	初期値	目標値	実績値
ウィズカフェ（第1から第3まで）に参加した人の数	月平均 延べ 20人	合計で平均延べ 100人 初期値より 80人増	<p>2020年4月～2023年1月までの合計は延べ604人。 月平均：34人（第1～3カフェの平均を単純に足した数） 初期値より平均14人増 【目標値未達成】</p> <p>・第1カフェ（抹茶カフェ） 月平均：約13人 2020年4月～2023年1月：延べ250人参加 コロナ禍で中止した期間：計15か月＝実質開催19か月 （中止期間：2020年4,5,6月/2021年1,5,6,8,9月/2022年1,2,4,8,9,12月/ 2023年1月）</p> <p>・第2カフェ（カフェシスター） 月平均：約7人 2020年4月～2023年1月：延べ146人参加。 コロナ禍で中止した期間：計7か月＝実質開催22か月 （中止期間：2021年1,6,8月/2022年1,2,8,9月）</p> <p>・第3カフェ（カフェ/ビンゴ） （※2020年4月ロス・カフェから改称） 月平均：約14人 2021年3月～2023年1月：延べ208人参加。 コロナ禍で中止した期間：計8か月＝実質開催15か月 （中止期間：2021年5,8,12月/2022年1,2,8,11,12月）</p>

3-4 外部との連携の実績 【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】

■ エコマップ制作概要

色分け：助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



外部との連携の実績

本事業は、更生保護施設ウィズ広島を退所した人の孤立を防ぐための直接的支援であり、地域の関係機関等をつなぐことを志目的としたが、フォローアップ支援活動を充実・強化していく中で、退所者自身がカフェ運営に参加するピア・サポーターとして少しずつ、施設でのボランティア活動に従事する退所者が増えた。

また、ウィズ広島では以前から、広島紅葉ライオンズクラブをはじめ多くの団体、市民の方から寄付物品をいただいている。そして新たに更生保護施設等支援協議会理事から食料品（ロスフード）の寄付を受けたことで、これを活用したロスカフェ（現在・ビンゴカフェ）を実施する着想を得ることができ、現在スーパー3店舗、広島市議会議員から紹介を受けたフードバンクからの食料品寄付を受けてのビンゴカフェを運営している。これら外部との連携が深まった背景には、外部からの寄付物品とそれを活用する機会が増えた相乗効果と思われる。

本事業では、ウィズ広島を退所して自立生活を送っている人への息の長い（終了を特に定めない）フォローアップ支援を行っているが、高齢の人も多いため、地域での一人暮らしが困難になってきた場合を視野に入れると、今後との課題としては、高齢者福祉分野の施設・団体との連携関係を構築する必要があると考えている。さらに、これまでは、「つながる」「孤立させない」ことを目標にフォローアップ支援を行ってきたが、今後は一歩踏み込んで「本人たちが好きなこと・楽しみを見つける」「いろいろな体験ができる機会の提供」などアウトリーチ型支援を行っていきたい。

広報においては、HP、ブログ、ニュースレターで広報したが、具体的に広島県、広島市と本業における連携はなかった。ただ、本年12月23日に、オンライン（Zoom）での成果報告を行い、広島県、広島市、中国管内矯正施設に本事業を広報して連携に努めた。また、日本更生保護協会発行の「更生保護」誌（2022（令和4）年8月号）に本事業に関する記事が掲載され、全国の更生保護関係者への広報となっている。

一方、更生保護団体とは当法人の理事会に、元広島県更生保護協会理事長、同協会理事、広島県保護司会連合会長、元広島県更生保護女性連盟会長、地区更生保護女性会長などが理事として就任しており、また評議員会においては、現、元地区保護司会長2名、元、現地区更生保護女性会長5名が評議員として就任しており、更生保護関係諸団体との広報及び連携は取れていると考える。

4. アウトカムの分析

ロジックモデル

【退所者フォローアップ支援】

中期 アウトカム

更生保護施設ウィズ広島を自立退所した刑務所出所者等に、「自分は一人ではない」といった意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活することができる。

短期 アウトカム

01

退所者の不安や悩みが軽減され、自分の問題に気づき、抱えている悩みが解決する。

02

この支援事業を通して、困った時にはウィズ広島に相談できるという安心感、及び地域の人々（参加ボランティア等）との交流ができ、地域につながる心理的な安定が得られる。

アウトプット

0101

フォローアップ支援員の生活相談を受けられる状態になる。

0102

退所者のうち、精神的に課題の大きい人が、心理専門家による継続的にカウンセリング支援を受けられる関係になる。

0201

3つのカフェのいずれかに定期的又は不定期にでも参加できるようになる。

活動

専従するフォローアップ支援員が、退所者が来訪時に生活相談を実施する。一方で、来所しない退所者へ電話、手紙、訪問によって生活相談を行う。

必要かつ同意がある退所者への専門的心理カウンセリングを継続的に実施する。

ウィズ広島を自立退所した人を対象に、退所後もウィズ広島に足を運びやすくするためのカフェを定期的開催する。

4-1 アウトカムの達成度

(1) アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 01 (1/3)	退所者が、不安や悩みが軽減され、自身の問題や課題に気が付き、抱えている課題が解決する。 目標達成時期 2023年1月																																						
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）																																				
<p>①（広島県内に在住する）退所者のうち、フォローアップ支援につながっている人の割合 (A:退所後2ヶ月以内、B:退所後6ヶ月以内、C:退所後1年以上)</p> <p>②支援を受けている人のうち、「来て良かった」など肯定的に感じた人の割合</p>	<p>①調査ができず把握できない</p> <p>②80%</p>	<p>①A:90% B:80% C:50%</p> <p>②90%</p>	<p>① A（退所後2ヶ月以内）：約99% / B（退所後6ヶ月以内）：約95% / C（退所後1年以上）：約90% 【目標値達成】 補足：フォローアップ支援では、来所者への支援以外に、来所しない人に対しても手紙や電話等で定期的に連絡をとっている。一部に連絡が取れなくなる人もいるが、そのように自ら支援を切る人はわずかしおらず、大多数が支援につながり続けている。よってCについては、支援を受けている人の再犯率（p.26アウトカム01-⑥参照）である10.5%を除いた約90%の人が、支援につながっているとして集計した。</p> <p>② 98.1% 【目標値達成】 「ウィズ広島に来てみてどうでしたか」の設問でアンケート調査したところ、「話せてよかった」「スタッフに会えてうれしかった」「明日も頑張ろうと思えた」等の肯定的意見を選択した人が98.1%、「物足りなかった」「嫌な気分になった」などの否定的意見は1.2%であった。</p> <table border="1" data-bbox="1151 916 2092 1544"> <thead> <tr> <th colspan="3">（問1-2）ウィズ広島に来てみてどうだったか（複数回答）</th> </tr> <tr> <th>全回答数 N=159</th> <th>項目</th> <th>当てはまる</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">肯定的意見 156回答 = 98.1%</td> <td>話せてよかった</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>スタッフに会えてうれしかった</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>ほっとした</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>楽しかった</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>明日も頑張ろうと思えた</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>悩みが軽くなった</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>満足した</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>不安が減った</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">否定的意見 2回答 = 1.2%</td> <td>物足りなかった</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>嫌な気分になった</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他 1回答 = 0.6%</td> <td>その他「ごく自然だった」</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>「今のまま存在してほしい。心の拠り所」→肯定的意見に1カウント</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「その日のスタッフ数で対応が違う」→否定的意見に1カウント</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>	（問1-2）ウィズ広島に来てみてどうだったか（複数回答）			全回答数 N=159	項目	当てはまる	肯定的意見 156回答 = 98.1%	話せてよかった	30人	スタッフに会えてうれしかった	30人	ほっとした	24人	楽しかった	20人	明日も頑張ろうと思えた	14人	悩みが軽くなった	10人	満足した	9人	不安が減った	9人	否定的意見 2回答 = 1.2%	物足りなかった	1人	嫌な気分になった	0人	その他 1回答 = 0.6%	その他「ごく自然だった」	1人	「今のまま存在してほしい。心の拠り所」→肯定的意見に1カウント	1人		「その日のスタッフ数で対応が違う」→否定的意見に1カウント	1人
（問1-2）ウィズ広島に来てみてどうだったか（複数回答）																																							
全回答数 N=159	項目	当てはまる																																					
肯定的意見 156回答 = 98.1%	話せてよかった	30人																																					
	スタッフに会えてうれしかった	30人																																					
	ほっとした	24人																																					
	楽しかった	20人																																					
	明日も頑張ろうと思えた	14人																																					
	悩みが軽くなった	10人																																					
	満足した	9人																																					
	不安が減った	9人																																					
否定的意見 2回答 = 1.2%	物足りなかった	1人																																					
	嫌な気分になった	0人																																					
その他 1回答 = 0.6%	その他「ごく自然だった」	1人																																					
	「今のまま存在してほしい。心の拠り所」→肯定的意見に1カウント	1人																																					
	「その日のスタッフ数で対応が違う」→否定的意見に1カウント	1人																																					

退所者が、不安や悩みが軽減され、自身の問題や課題に気が付き、抱えている課題が解決する。
目標達成時期 | 2023年1月

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）																																				
<p>③支援を受けている人のうち、 悩みや不安の少ない者の割合 (①とても感じている ②少し感じている ③どちらでもない ④あまり感じていない ⑤全く感じていない)</p> <p>④支援を受けている人のうち、 抱えている課題が解決している者の割合 (①全く解決していない ②あまり解決していない ③少しは解決している ④十分に解決している)</p> <p>⇒調査段階で「どちらともいえない」を追加+文言修正 (①全く解決していない ②あまり解決していない ③どちらともいえない ④少しは解決している ⑤完全に解決している)</p>	<p>③アンケート未実施 のため把握できない</p> <p>④アンケート未実施 のため把握できない</p>	<p>③フォローアップ対象 者全体の平均が4点 (④あまり感じていな い) 以上</p> <p>④フォローアップ対象 者全体の平均が4点 (④少し解決してい る) 以上</p>	<p>③平均3.45点 【目標値未達成】</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">(問3-1) 悩みや不安がある</th> </tr> <tr> <th>支援前(N 40)</th> <th>現在(N 40)</th> <th>P値</th> </tr> <tr> <td>2.65</td> <td>3.45</td> <td>0.010</td> </tr> </table> <p>目標値の4点までは到達できなかったが、支援前より悩みや不安が減りつつあるとすることができる。（詳細は巻末資料参照）</p> <p>④平均3.45点 【目標値未達成】</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">(問3-4) 自身の課題・わるいところは解決しているか</th> </tr> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>点数</th> <th>平均値</th> </tr> <tr> <td>完全に解決している (5点)</td> <td>4</td> <td>20</td> <td rowspan="6">3.45</td> </tr> <tr> <td>少しは解決している (4点)</td> <td>18</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない (3点)</td> <td>13</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>あまり解決していない (2点)</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>全く解決していない (1点)</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>40</td> <td>138</td> </tr> </table> <p>目標値の4点に届かなかったが、%で見ると「完全に解決している」「少しは解決している」を選択した人は合わせて55%になり、支援によって約半数が課題が解決しつつある状況がうかがえる。（詳細は巻末資料参照）</p>	(問3-1) 悩みや不安がある			支援前(N 40)	現在(N 40)	P値	2.65	3.45	0.010	(問3-4) 自身の課題・わるいところは解決しているか					人数	点数	平均値	完全に解決している (5点)	4	20	3.45	少しは解決している (4点)	18	72	どちらともいえない (3点)	13	39	あまり解決していない (2点)	2	4	全く解決していない (1点)	3	3	合計	40	138
(問3-1) 悩みや不安がある																																							
支援前(N 40)	現在(N 40)	P値																																					
2.65	3.45	0.010																																					
(問3-4) 自身の課題・わるいところは解決しているか																																							
	人数	点数	平均値																																				
完全に解決している (5点)	4	20	3.45																																				
少しは解決している (4点)	18	72																																					
どちらともいえない (3点)	13	39																																					
あまり解決していない (2点)	2	4																																					
全く解決していない (1点)	3	3																																					
合計	40	138																																					

指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）																
<p>⑤支援を受けている人のうち、頼れる人・場所があると感じる者の割合 (①頼る人がいない ②ほとんど頼る人がいない ③少し頼れる人がいる ④たくさん頼れる人がいる)</p> <p>⇒調査段階で「どちらともいえない」を追加+文言修正 (①いない ②どちらかというといない ③どちらともいえない ④どちらかというといふ ⑤いる)</p>	<p>⑤アンケート未実施のため把握できない</p>	<p>⑤フォローアップ対象者全体の平均が4点 (④どちらかというといふ) 以上</p>	<p>⑤平均4.23点 【目標値達成】</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="3">(問4-1) 自分には頼りになる人がいる (ひとりぼっちではない) と思う</td> </tr> <tr> <td>支援前(N 40)</td> <td>現在(N 40)</td> <td>P値</td> </tr> <tr> <td>2.98</td> <td>4.23</td> <td>0.000</td> </tr> </table> <p>目標値の4点を超える成果を達成でき、対象者にはほとんど誰かしら頼れる人がいる状態であると言える。 さらに、追加質問「問4-5 あなたにとって頼れる人は誰か？」(複数回答可)の問い対しては、「ウイズ広島職員・ボランティア」と回答した人が80%、次いで配偶者(交際相手)25%、友人22.5%、仕事の関係者20%、知人10%、親戚10%、一人もいないが5%であった。このことから、ウイズ広島の職員・ボランティアを頼りにしている人が相当数いることがうかがえる。(詳細は巻末資料参照)</p>	(問4-1) 自分には頼りになる人がいる (ひとりぼっちではない) と思う			支援前(N 40)	現在(N 40)	P値	2.98	4.23	0.000							
(問4-1) 自分には頼りになる人がいる (ひとりぼっちではない) と思う																			
支援前(N 40)	現在(N 40)	P値																	
2.98	4.23	0.000																	
<p>⑥支援を受けている人の再犯率(職員が把握した範囲内とする) 【中期アウトカム指標】</p>	<p>⑥把握してこなかった</p>	<p>⑥5%</p>	<p>⑥ 10.5% 【目標値未達成】</p> <table border="1"> <tr> <td>(2022年12月時点)</td> <td>男性</td> <td>女性</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>登録者数</td> <td>193人</td> <td>73人</td> <td>266人</td> </tr> <tr> <td>再犯者数</td> <td>19人</td> <td>9人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>再犯率</td> <td>9.8%</td> <td>12.3%</td> <td>10.5%</td> </tr> </table> <p>目標値の5%を上回る結果となったが、一方で犯罪白書に記載の国全体の再入率(同条件の調査ではないため、あくまで参考まで。詳細は巻末資料参照)と比較すると、出所後2年半の仮釈放者の再入率は15.3%となっていることから、その数値と比較すると、支援により一定程度再犯率を抑えることに貢献したと判断する。 また、こちらは、短期アウトカム指標ではなく、中期アウトカム指標として設定したものであり、目指すべき中期アウトカムにどの程度向かっているかを内部で検討するために測定したものである。</p>	(2022年12月時点)	男性	女性	合計	登録者数	193人	73人	266人	再犯者数	19人	9人	28人	再犯率	9.8%	12.3%	10.5%
(2022年12月時点)	男性	女性	合計																
登録者数	193人	73人	266人																
再犯者数	19人	9人	28人																
再犯率	9.8%	12.3%	10.5%																

指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）																		
<p>①継続的に(3ヶ月以上)カフェに参加している人の数</p> <p>②カフェ利用者のうち「地域の人との交流がある」と回答した者の割合 (①まったく交流がない ②あまり交流がない ③ある程度交流がある ④十分交流がある)</p> <p>⇒調査段階で「どちらともいえない」追加+文言修正 (①まったくない ②あまりない ③どちらともいえない ④すこしある ⑤とてもある)</p> <p>③カフェ利用者のうち「この土地(広島)に愛着を感じる」とする者の割合 (①まったく感じていない②あまり感じていない ③どちらでもない④少しは感じている ⑤とても感じている)</p> <p>④ピアサポーターになった退所者の事例</p>	<p>①0 ※事業計画書には未記載であったが、振り返ると初期値はおおよそ20人ほど</p> <p>②0 (アンケート未実施のため)</p> <p>③0 (アンケート未実施のため)</p> <p>④2人： ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所づくり、心の安定を得ている</p>	<p>①80人</p> <p>②カフェ利用者全体の平均点が4点(④すこしある)以上</p> <p>③カフェ利用者全体の平均点が4点(④少しは感じている)以上</p> <p>④5人： ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所をつくり、心の安定を得ている</p>	<p>①約34人 【目標値未達成】 コロナ禍でカフェの中止を余儀なくされる時期が断続的に続いたことから、参加を希望しても会自体が中止のため参加できなかった、体調を考慮して参加を控えたという人もおり、当初想定よりも数が伸びなかった。初期値からは着実に増えているものの、振り返るとやはりコロナ禍の影響が大きかった。</p> <p>②平均2.95点 【目標値未達成】</p> <table border="1" data-bbox="1256 616 1863 791"> <tr> <th colspan="3">(問4-2) 地域の人との会話や交流（まじわり）がじゅうぶんにある</th> </tr> <tr> <th>支援前(N 40)</th> <th>現在(N 40)</th> <th>P値</th> </tr> <tr> <td>2.33</td> <td>2.95</td> <td>0.014</td> </tr> </table> <p>初期値よりも上がっているが、目標値の4点には到達できていない。前後比較をとっている他の項目に比べて、支援前と現在にあまり差異がなく、地域との交流は短期間では難しいことが裏付けされた。交流を図るにはもう少し戦略がいるように考える。</p> <p>③平均4.00点 【目標値達成】</p> <table border="1" data-bbox="1256 1035 1924 1179"> <tr> <th colspan="3">(問4-3) 今住んでいる地域（広島）のことが好きである</th> </tr> <tr> <th>支援前(N 40)</th> <th>現在(N 40)</th> <th>P値</th> </tr> <tr> <td>3.75</td> <td>4.00</td> <td>0.185</td> </tr> </table> <p>大幅な変化はなかったが、長年居住したためか愛着度が増しているように思える。</p> <p>④ピアサポーターになった退所者：4人 【目標値未達成】 参考：ピアサポーター談「自分は必要とされている、頼りにされていると感じる」「仲間のようにカフェについての相談されることが嬉しい。恩返しのつもりで活動しているが、今は自分の“生きがい”や“楽しみ”になっている」（ほか事例詳細として、結果的に再犯となってしまったが印象的な事例についてp.13に記載）</p>	(問4-2) 地域の人との会話や交流（まじわり）がじゅうぶんにある			支援前(N 40)	現在(N 40)	P値	2.33	2.95	0.014	(問4-3) 今住んでいる地域（広島）のことが好きである			支援前(N 40)	現在(N 40)	P値	3.75	4.00	0.185
(問4-2) 地域の人との会話や交流（まじわり）がじゅうぶんにある																					
支援前(N 40)	現在(N 40)	P値																			
2.33	2.95	0.014																			
(問4-3) 今住んでいる地域（広島）のことが好きである																					
支援前(N 40)	現在(N 40)	P値																			
3.75	4.00	0.185																			

(2) アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている	退所者が支援をととても肯定的に感じており、退所者の孤独感の軽減などに効果があったことを実感できた一方で、目標値に今一步達成できなかった指標もあった。成果は着実に出ていることから、やり方が大きく間違っているのではなく、計画した目標値の設定が高すぎた部分があったのではと考える。
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値が達成できている	
<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている	
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	

4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】		
実際に事業で使った金額と種類	合計 12,941,413 円 ※2023年4月末 推定値	事業費：12,934,813 円 (内訳 直接事業費：11,994,540 円 / 管理的経費：940,273 円) ※上記事業費には、自己資金：2,381,721 円 を含む 評価関連経費：6,600 円
<p>事業費の多くを人件費に投入し、フォローアップ支援員を常勤に近い日数、時間で雇用した。インプットに対して、事業成果・質ともに妥当であった。</p>		

特に社会課題解決に貢献したアウトカム

【アウトカム】 01 退所者が、不安や悩みが軽減され、自身の問題や課題に気が付き、抱えている課題が解決する。

【要因】

本事業の支援を受けた退所者へのアンケートでは、退所者がウィズ広島職員の頼りにしていることや、退所者全体の再犯率が10.5%と、国の再入率と比べると低く抑えられており、退所者の不安や悩みが軽減されていることなどを読み取ることができ、上記アウトカムについては高い効果が出ていると言える。

この要因としては、フォローアップ支援員という、退所者（ウィズ広島を退所した人）のことを第一（中心）に考える立場の職員を確保できたことが、まず非常に重要であったと考える。また、フォローアップ支援員が、支援する側の都合ではなく、支援を受ける側（退所者）の気持ちや希望を優先して考え、関わり方や支援の内容を工夫したことも、支援効果を一層高めることにつながったと考える。

具体的には、フォローアップ支援員の支援対象は退所した人であるにもかかわらず、ウィズ広島に入所している人に対して、毎朝「おはよう」「行ってらっしゃい」と声掛けして、入所中から関係性を作る支援を始めている。退所が近づくと、一人一人と時間を取って面談を行い、カフェや退所後の支援について案内する。退所日には、手作りの退所祝いカードと、ウィズ広島の連絡先を入れた手書きのカード（財布に入るサイズのもの）を渡して、門出を祝う気持ちを伝えるなど、退所後の支援につながりやすくするための工をしている。

支援員は、退所祝いのカードや連絡先カードのほか、住所がわかる退所者全員に誕生日カードを毎年送っているが、これらはすべて手作りで、一人一人に手書きのメッセージを添えている。手紙もパソコンで作成せず手書きで送っている。これは、支援員が、保護司として刑務所入所中の人と手紙でやりとりをした際に、「手書きの手紙は、どんなに短くてもうれしい」という言葉をもらったという経験からの発案である。手作り・手書きの場合、手間がかかり事務の負担が大きくなるが、受け取る退所者の気持ちを考え、喜んでもらおうということを第一に考えて、このようにしている。

また、退所者一人一人が抱えている問題の大きさやニーズに合わせて、支援の内容や頻度を変えているところも特徴的である。一例を挙げるなら、電話支援は、すべての退所者に行っているわけではなく、来所時の言動や届いた手紙の内容などで、支援員が特に気になった時に往信している。一方で、短気でトラブルを起こしやすいなど日常的な再犯リスクの高い人については、毎日決まった時間に電話を掛けてこさせ、10分だけ話をするという約束を交わしている。この場合は、支援員から電話することはなく、また、約束した時間以外に電話が来ても（約束を守れなかった場合は）話を聞かず電話を切り、翌日の約束の時間に電話をさせるなど、一貫した支援姿勢と距離感を保ち、同じ人に対しても状況に応じた緩急をつけた関わりをしている。さらに、頻繁に来所を希望する退所者については、ボランティア・ワークという「ウィズ広島での仕事」を作ることで、「毎日来所すると回りにどう思われるだろうか」という本人のプライドを守るよう配慮している。これらの支援を考える際の、ウィズ広島やフォローアップ支援員の基本的な心構えとしては、関わる時間の長短ではなく、退所者一人一人の「希望」「気持ち」を一番に考え、一人一人がウィズ広島から帰るときに笑顔で帰れるように、という視点から支援を行っている。

こうした支援が成り立つ背景として、支援員に裁量を持たせ、そのアイディアに耳を傾け採用する幹部職員の柔軟な姿勢があったこと、また、そもそも支援員が幹部職員に提案ができる風通しの良さといった組織風土についても、重要な要素になったと考える。

特に達成が困難であったアウトカム

【アウトカム】 02 この支援事業を通して、困った時にはウィズ広島に相談できるという安心感、及び地域の人々（参加ボランティア等）との交流ができ、地域につながる心的な安定が得られる。

【課題】

上記アウトカムに対応したアンケートの設問「地域の人との会話や交流がじゅうぶんにある」に対する回答は、下記の通りであった。

N 40	まったくない 1点	あまりない 2点	どちらともいえない 3点	すこしある 4点	とてもある 5点	平均値
支援前	20人	3人	7人	4人	6人	2.33
現在	13人	3人	6人	9人	9人	2.95

【目標値4点】

点数化した平均値が2.33（支援前）から2.95（現在）に上昇しており、退所者が徐々に地域社会と接点を持ちつつあることがうかがえるが、目標値の4点には到達できなかった。支援処遇者として、今後検討していかなければならない問題だと考える。

事業開始当初に仮説として考えていたことは、ウィズカフェでは地域のボランティアの方々が運営スタッフとして参加していることから、退所者がカフェに来ることで、退所者と地域の方々との間に会話や交流が生まれ、カフェ外での関係作りにも役立つのではないかと考えていた。しかし、アンケート結果を見ると、最初の想定と比べて、効果が低かったと言わざるを得ない。

その要因としては、次の二つが推測される。一つは、カフェでは、他の退所者やウィズ広島のスタッフも多くいるため、なかなか、よく知らない地域ボランティアの方との交流が生まれにくかったのかもしれない。二つ目には、カフェに参加している地域ボランティアの方々は決まった方が多く、退所者にとっては、それらの方々がウィズ広島のスタッフのように感じていて、「地域の人」という感覚を得にくかったのではないかと考えられる。

ただ、今回行ったアンケートによれば、ウィズ広島の職員を頼りに感じている人が非常に多いことから、もっとも大きな目標であった「ウィズ広島を退所した人が、地域で孤立に陥ることを防ぐ」という点については、今回の活動によってある程度達成できていると思われ、今後は、さらに一歩進めて、ウィズ広島という安心できる場所を持てるようになった人が、少しずつ、ウィズ広島のほかにも、それぞれの生活地域で頼れる人や足を運べる場所を作っていけるような、そういったつながる場づくり、機会づくり、人間関係づくりを意識した活動を考えていきたい。

5. 考察

事業全体を振り返っての考察

本事業の拠点要員となるフォローアップ支援員の雇用によって本格的に本事業が始動した。しかし、所要人件費関係の支出に制限があり、自己資金の投入によって補填してきた。その結果、目的が達成したと自己評価している。これは何ものにも代えられない喜びである。なお、本事業を振り返って次のとおり考える。

- 1 不安定なまま退所した人々となつたことで、日々来所相談があるなど相談ニーズの高さがうかがえ、またカウンセリング及びカフェごとに退所者の表情が明るくなっていく実感があり、退所者がウィズ広島とつながりを持ち続けることで、結果的に再犯をしない人生を送れている人が多数いるものと考ええる。
- 2 本事業の期間を通して、退所した人のうち本事業のピア・サポーターとして参加した人の問題解決能力、自己肯定感が増し、表情、態度が明るくなった。
- 3 本事業の期間を通して関わった職員、ボランティア、ピア・サポーターが定期的にスタッフ会議を行い、意見交換し、調整しつつ本事業を遂行したことがよかったと自己評価している。
- 4 本事業を通して、多くの支援ボランティアが、かつて犯罪をした退所した人と関わり「犯罪者」と言われる人を蔑視せず、包摂していったことが実感できた。（波及効果）

以上ウィズ広島が、本事業を終えるに当たっての考察である。

事業全体を振り返っての考察

ウィズが今後事業を進めていく上での学び

ウィズ広島においては、休眠預金から支援を受けたフォローアップ支援事業を、次年度、内容を多少変えて継続実施するよう計画している。その財源を安定的に得るためにも、他の民間助成の獲得に意欲的に取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症が国内でまん延する3年前までは、ウィズ広島において、福祉（広島市中区生活保護課）、労働（ハローワーク）、医療（済生会病院）、矯正機関（広島・岩国刑務所）等と、年1回ウィズ広島で協議会を開き、参加機関・団体との相互の連携を深めていたが、次年度にはこの協議会の再開と、新たな参加団体（福祉団体等）を加えて協議会を開催し、更なる連携の輪を広げていきたい。

退所者の支援においては、訪問支援員、フォローアップ支援員を中心にしてアウトリーチ型支援の実施を推進する予定である。

施設を退所した人への関わりをする際に参考にしてもらえそうなノウハウの共有

休眠預金助成を受けての退所者フォローアップ支援事業において中心的役割を果たし、事業の進展に多大な寄与をした支援員等スタッフの特筆すべき活動を参考までに紹介したい。

- 退所者にとって、定期的にかかれる居場所（カフェ）と、いつも自分を待っていてくれるスタッフの存在は、非常に重要である。
- 会話とお茶を楽しむ「抹茶カフェ」、話が苦手な人のための「カフェシアター」、ロス食品などお土産がもらえる「ビンゴカフェ」など、いろんな思いの人にもつながってもらいたいという思いから、様々な場の設定を行う。
- 支援側の都合ではなく、「支援を受ける人がどのように感じるか（気持ち）」を支援の軸の中心に置いて、支援内容を考える。
- 退所する際に、手作りの退所祝いカードと、困った時に連絡できるよう支援員の名前と施設の電話番号を書いたカード（名刺ではなく、財布に入れられるポイントカードサイズ、手書きのもの）を渡している。
- 退所後も、住所がわかる人には全員、毎年、手書きのメッセージを添えた誕生日カードを、誕生日にあわせて送付する。
- 来所した人には、コーヒーを出してもてなしている。
- 頻繁に来所したい人のために、段ボールの整理や草むしり、清掃などの「ボランティア・アワーク」のポイントを還元し（1日100円）支給している。
- 複数の人が同時に来所した場合、声を掛けてまずコーヒーを出し、集まった人のタイプを見て（長時間待つのが平気な人、とにかく話を聞いてもらいたい人、他の退所者との交流ができる人等）、その人のタイプに合わせて話を聞いている。場合によっては30分～1時間とカウンセリング的な場も設定する。
- カフェのお土産（ロスフードなど）は、本人の生活（自炊する人が否か等）に合わせて内容をセットするよう配慮している。
- 時には叱ったり、約束を守れなければ話を聞かず終了することもあれば、雑談だけで終わることも多い。

6. 結論

6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性				○	
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性				○	
3. 事業実施のプロセス			○		
4. 事業成果の達成度				○	

6-2 事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

これまで幾度も犯罪を繰り返して来た人は社会でのつながりを失っている人が多く、刑務所出所後に更生保護施設ウィズ広島で引き受けて生活基盤を整えたとしても、施設退所後に再犯に至ることが多々あったことから、当法人としては、地域で孤立・孤独になることを防ぐことで再犯を防ぐことが出来るのではないかと考え、自ら退所後につながりたいと希望する人だけではなく、退所したすべての人にウィズ、そしてそれぞれが生活している地域とつながってほしいと考えて本事業を計画し、3年間取り組んできた。

当法人としては、支援の中で体感的には成果・効果があると感じていたが、事後評価を通じ、改めて支援をした人たちについて、支援提供前と比べて、ほとんどの方に「頼りになる人がいる」状況が作れていること、その8割の人が「ウィズ広島のスタッフ」を頼れる存在として挙げてくれていることが分かり、支援の効果が数値としても可視化でき良かった。次のステップとしては、対象者がウィズだけに頼るのではなく、ウィズ以外にも地域の中に頼る先を広げていけるような視点を持って取り組んでいきたい。

また、フォローアップ支援につながっている人の再犯率も全国平均に比べて低い数字であることなどから、この事業設計が目指した成果につながったと考えており、この制度設計が妥当だったと考えている。

7. 資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.35
2	アウトカム01,02 フォローアップ支援についての利用者アンケート <様式>	p.36~37
3	同上 <結果まとめ>	p.38~60

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
フォローアップ支援員による心理生活相談、カウンセリングを受けることにより、退所者が自身の問題や課題に気づくことができ、不安や悩みの軽減、抱えている課題が解決する。	①退所後の心理生活相談を受けて「来て良かった、相談して良かった」と感じた人の割合 ②心理専門家による継続的カウンセリングを受けた人のうち(6ヶ月以上)、「不安や悩みが軽くなった」と感じた人(本人又は専門職による判断)の割合。 ③問題の内容により、関係機関等につないだ人の数又は事例。 ④家庭訪問を行った人数等。	①80%(4月78人、5月101人:延人数) ②85%(4月1人、5月3人) ③0人 ④0人	①90% ②90% ③50人 ④30人(家庭訪問することで、利用者が自身の不安や悩みを話すことができるようになる)	2023年1月
ウィズカフェに参加することにより、困った時には施設に相談できるという安心感と、地域の人々(参加ボランティア等)との交流を通じ居住地域への愛着が湧く等して、心的な安定が得られる。	①カフェに参加した人のうち、その後、個別に施設に来所来電(相談)した人の数 ②継続的に(3ヶ月以上)カフェに参加している人の数 ③ピアサポーターになった退所者の事例	①2人 ②0人 ③2人:ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所づくり、心の安定を得ている。	①50人 ②80人 ③5人:ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所をつくり、心の安定を得ている。	2023年1月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
退所者が、不安や悩みが軽減され、自身の問題や課題に気が付き、抱えている課題が解決する。	①(広島県内に在住する)退所者のうち、フォローアップ支援につながっている人の割合(A:退所後2ヶ月以内、B:退所後6ヶ月以内、C:退所後1年以上) ②支援を受けている人のうち、「来て良かった」など肯定的に感じた人の割合 ③支援を受けている人のうち、悩みや不安の少ない者の割合(①とても感じている②少し感じている③どちらでもない④あまり感じていない⑤全く感じていない) ④支援を受けている人のうち、抱えている課題が解決している者の割合(①全く解決していない②あまり解決していない③少しは解決している④十分に解決している) ⑤支援を受けている人のうち、頼れる人・場所があると感じる者の割合(①頼る人がいない②ほとんど頼る人がいない③少し頼れる人がいる⑤たくさん頼れる人がいる) ⑥支援を受けている人の再犯率(職員が把握した範囲内とする)	①調査ができず把握できない。 ②80%(4月78人、5月101人:延人数) ③④⑤⑥アンケート未実施のため把握できない ⑦把握してこなかった。	①A:90%、B:80%、C:50% ②90% ③フォローアップ対象者全体の平均が4点(④あまり感じていない)以上 ④フォローアップ対象者全体の平均が4点(④少し解決している)以上 ⑤フォローアップ対象者全体の平均が4点(④少しは感じている)以上 ⑥5%	2023年1月
退所者が、困った時にはウィズ広島に相談できるという安心感を得て、地域の人々(参加ボランティア等)との交流ができ、心的な安定が得られるようになる。	①継続的に(3ヶ月以上)カフェに参加している人の数 ②カフェ利用者のうち「地域の人との交流がある」と回答した者の割合(①まったく交流がない②あまり交流がない③ある程度交流がある④十分交流がある) ③カフェ利用者のうち「この土地(広島)に愛着を感じる」とする者の割合(①まったく感じていない②あまり感じていない③どちらでもない④少しは感じている⑤とても感じている) ④ピアサポーターになった退所者の事例	① ②③0(アンケート未実施のため) ④2人:ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所づくり、心の安定を得ている。	①80人 ②カフェ利用者全体の平均点が4点(④少しは交流がある)以上 ③カフェ利用者全体の平均点が4点(④少しは感じている)以上 ④5人:ピアサポーターとしての活動を通して自分の居場所をつくり、心の安定を得ている。	2023年1月

ウィズ広島・休眠預金事業アンケート(フォローアップ支援)

【アンケートの目的】

- このアンケートは、ウィズ広島を退所したみなさまを対象に、いまの生活の様子などをお聞きすることで、ウィズ広島が行うフォローアップ支援のよりよい方法を探ることを目的としています。
- アンケートへの回答は自由です(ご協力いただける方だけ、ご回答ください)。

1. まずは、あなたの今日(あるいはこれまでの)の気持ちについてお聞きします。

問 1-1 今日(またはこれまで)、ウィズ広島に来てくれた理由は、何ですか？

次のなかから、あなた自身の理由にあてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) 話がしたかった
- 2) スタッフに会いたかった
- 3) こまったことがある
- 4) ほしいものがある
- 5) ちかくまで来たから
- 7) なんとなく(とくに理由はない)
- 8) その他()

問 1-2 今日(またはこれまで)、ウィズ広島に来てみて、どうでしたか？

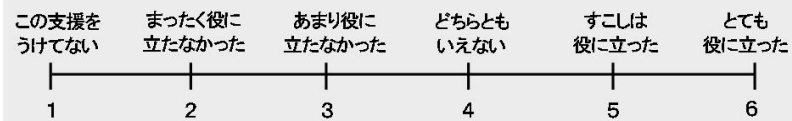
次のなかから、あなた自身の気持ちにあてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) ほっとした
- 2) 話せてよかった
- 3) スタッフに会えてうれしかった
- 4) たのしかった
- 5) まんぞくした
- 6) ものがもらえてよかった
- 7) 不安がへった
- 8) なやみが軽くなった
- 9) 明日もがんばろうと思えた
- 10) ものたりなかった
- 11) いやな気分になった
- 12) その他()

2. あなたにとってのウィズ広島の支援についてお聞きします。

下に書かれているそれぞれの支援は、あなたにとって、どのくらい役に立つものでしたか？

次のなかから、あなたの考えに近いものを選んで、それぞれあてはまるもの【1つに】○をつけて下さい。

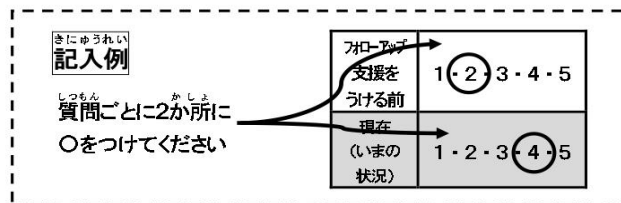


- 問 2-1 白倉さんや職員のみなさんと話したり相談すること — 1・2・3・4・5・6
- 問 2-2 カウンセラーの面接をうけること — 1・2・3・4・5・6
- 問 2-3 カフェ(抹茶・シアター・ロスフード)に参加する — 1・2・3・4・5・6
- 問 2-4 これらの支援(フォローアップ支援)を、はじめて受けたのはいつごろでしたか？

年 月 日 頃

3. 次に、あなたの生活状況についてお聞きします。

それぞれの質問について、フォローアップ支援をうける前(上の回答らん)、現在(下の回答らん)の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの【1つに】○をつけてください



問 3-1 悩みや不安がある	フォローアップ支援をうける前	1・2・3・4・5
ある すこしある どちらともいえない あまりない ない	現在(いまの状況)	1・2・3・4・5
問 3-2 自分自身の課題(わるいところ)が何か、わかっている	フォローアップ支援をうける前	1・2・3・4・5
わかっていない あまりわかっていない どちらともいえない すこしはわかっている わかっている	現在(いまの状況)	1・2・3・4・5

※「1つに」○をつけてください

問 3-3 よかったら、あなたが考える「自分のわるいところ」は何かを教えてください。

下にあなたのお考えを自由にお書きください。

問 3-4 問 3-2 や問 3-3 で回答していただいた課題、わるいところは、現在解決していると思いますか？

次のなかからあてはまるもの【1つに】○をつけてください。

- 1) 完全に解決している
- 2) すこしは解決している
- 3) どちらともいえない
- 4) あまり解決していない
- 5) まったく解決していない

4. 次に、あなたの考えについておうかがいします。

それぞれの質問について、フォローアップ支援をうける前(上の回答らん)、現在(下の回答らん)の両方に回答してください。 ※それぞれあてはまるもの[1つ]に○をつけてください

<p>問 4-1 自分には頼りになる人がいる(ひとりぼっちではない)と思う</p> <p>いない どちらかという どちらともいえない どちらかという いる</p> <p>1 2 3 4 5</p>	<p>フォローアップ支援をうける前</p> <p>1・2・3・4・5</p> <p>現在(いまの状況)</p> <p>1・2・3・4・5</p>
<p>問 4-2 地域のひととの会話や交流(まじわり)がじゅうぶんにある</p> <p>まったくない あまりない どちらともいえない すこしある とてもある</p> <p>1 2 3 4 5</p>	<p>フォローアップ支援をうける前</p> <p>1・2・3・4・5</p> <p>現在(いまの状況)</p> <p>1・2・3・4・5</p>
<p>問 4-3 今住んでいる地域(広島)のことが好きである</p> <p>まったく好きではない あまり好きではない どちらともいえない すこし好き とても好き</p> <p>1 2 3 4 5</p>	<p>フォローアップ支援をうける前</p> <p>1・2・3・4・5</p> <p>現在(いまの状況)</p> <p>1・2・3・4・5</p>
<p>問 4-4 今なら、事件を起こすことはないと思っている</p> <p>絶対に起こすと思う かなり起こすと思う どちらともいえない あまり起こさないとと思う 絶対に起こさないとと思う</p> <p>1 2 3 4 5</p>	<p>フォローアップ支援をうける前</p> <p>1・2・3・4・5</p> <p>現在(いまの状況)</p> <p>1・2・3・4・5</p>

※1つだけ○をつけてください

問 4-5 あなたにとって頼れる人は誰ですか？

次のなかから、あなたが頼れる人だと思う人【すべてに】○をつけてください。

- 1) 親戚 2) 配偶者(交際相手) 3) 友人 4) 知人 5) 仕事の関係者
 6) ウィズ広島の職員、ボランティア 7) 頼れる人は一人もいない
 8) その他()

5. 最後にあなた自身のことについておうかがいします。

問 5 あなたの年齢について、次のなかからあてはまるもの[1つ]に○をつけてください。

- 1) 20代 2) 30代 3) 40代 4) 50代 5) 60代 6) 70代 7) 80代以上

問 6 現在、お仕事はありますか？ ある ない

問 7 現在、一緒に暮らす人はいらっしゃいますか？ いる いない

問 8 ウィズのほかにいっている場所はありますか？あてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) デイケア 2) (障害者)福祉作業所 3) デイサービスなど高齢者福祉事業所
 4) 地域の趣味の会(サークルなど) 5) 公民館 6) 図書館 7) 公共施設のイベント
 8) 地域のボランティア団体の活動 9) 何もない
 10) その他()

★★これでアンケートはおわりです。ご協力、ありがとうございました★★

休眠預金活用事業 「フォローアップ支援」

- アンケート結果 -

ウィズ広島

【本事業のロジックモデル】

長期アウトカム
(最終アウトカム)

事業実施地域において、罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようになる

中期アウトカム
(中間アウトカム)

退所者に「自分一人ではない」という意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活を送ることができる

短期アウトカム
(直接アウトカム)

(01) 退所者が自身の問題や課題に気が付き、不安、悩み、孤独感などが軽減され、抱えている課題が解消される

(02) 退所者が困ったときには施設に相談できるという安心感を得て、地域の人々との交流ができ、心的な安定を得られるようになる

活動
(事業実施内容)

・フォローアップ支援(心理生活相談など)
・専門的心理カウンセリングなど

・ウィズカフェ

【アンケート調査の実施】

1. 調査の目的

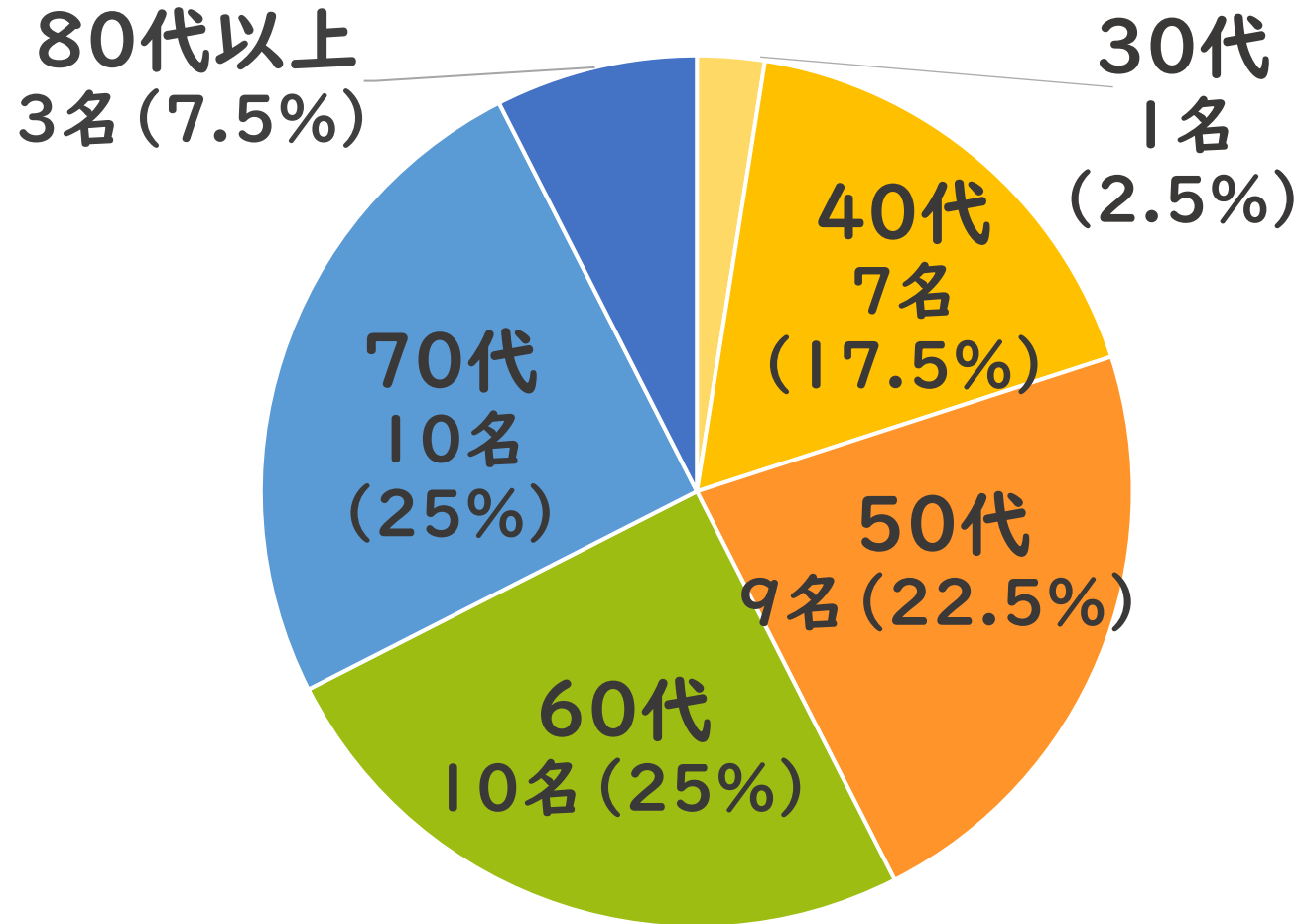
本事業（フォローアップ支援）が
対象者の役に立っているのか（有効といえるか）を明らかにすること。

2. 調査内容

(1) 調査方法	自記式のアンケート調査（手伝いが必要な方は一部補助）
(2) 調査対象	事業対象者266人の内、(3)の期間中にウイズ広島に来所した際に調査に協力してくれた人 ⇒ 40人回答（実施率15%，回答率100%）
(3) 調査実施期間	令和4年7月～令和4年12月（本日は12月時点の値を提示）
(4) 質問項目	<u>別紙調査票をご確認ください。</u>

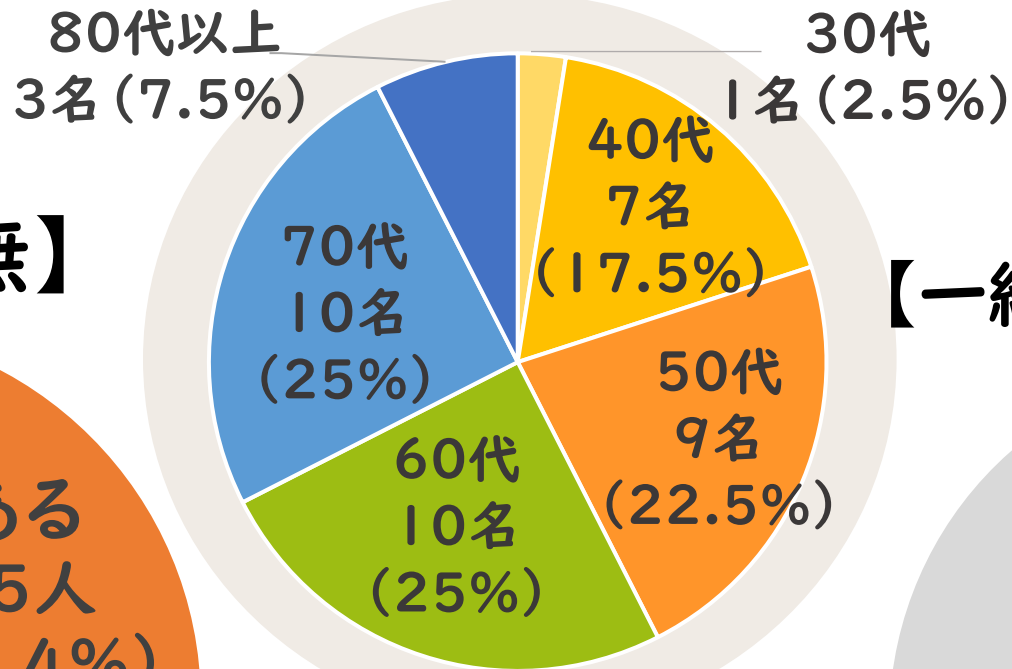
第1部：回答者の基本情報

【回答者の年齢】

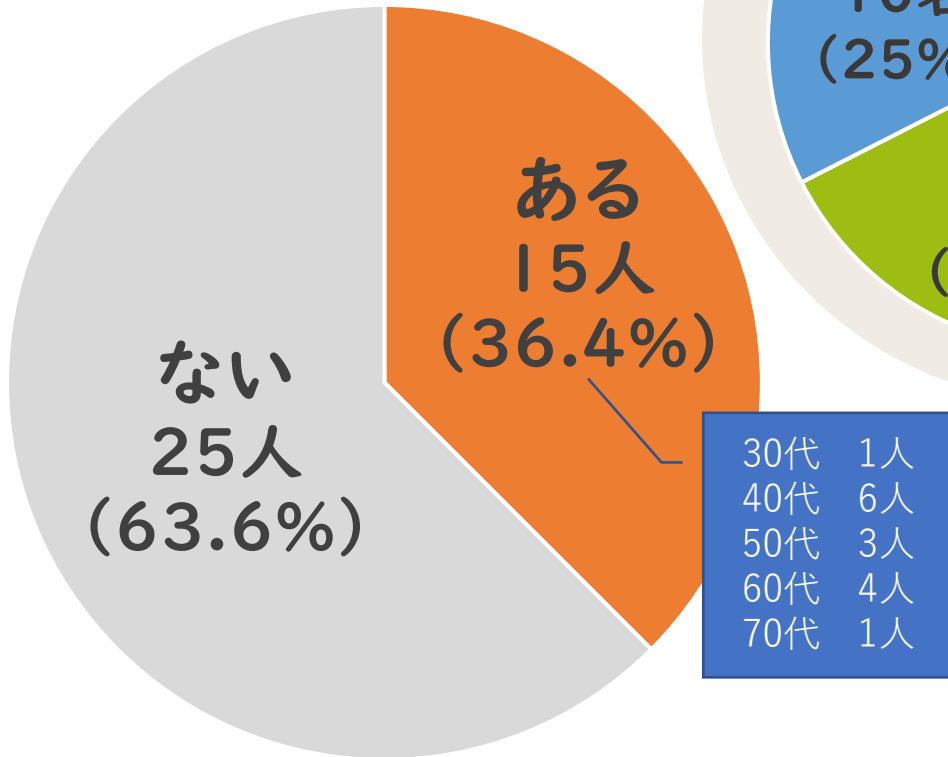


回答者全体の 57.5% が **60代~80代**

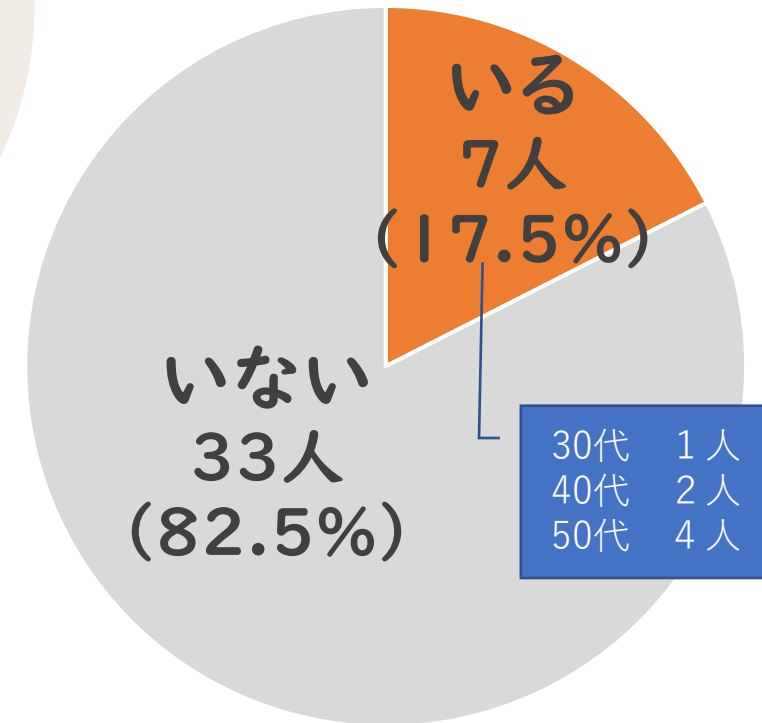
【回答者の年齢】



【仕事の有無】



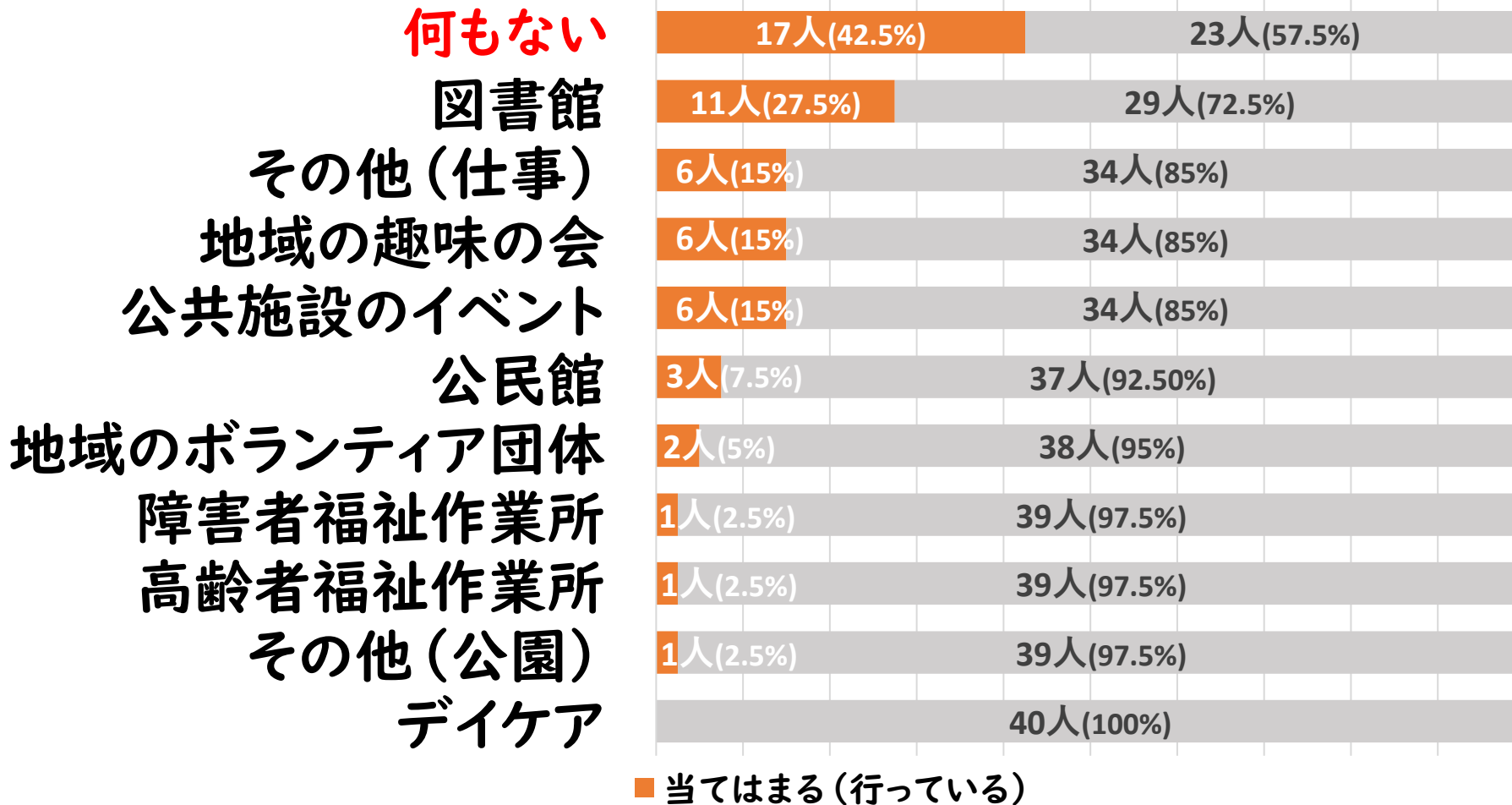
【一緒に暮らす人の有無】



仕事がない、同居人がいないなど、社会とのつながりの少なさと年齢は相関関係があると推測

【ウィズの他に行っている場所】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

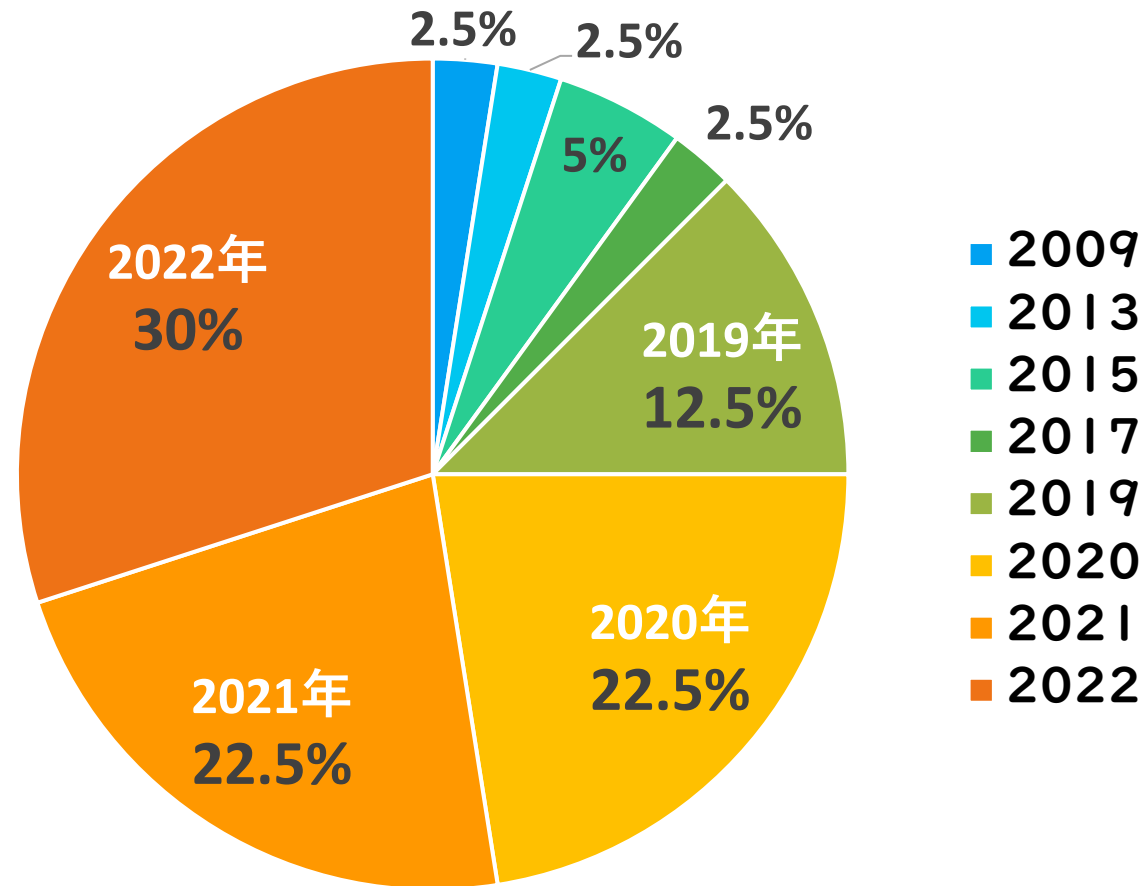


回答者全体のうち 42.5% が「ウィズの他に行くところが何もない」と回答

第2部:

本事業（フォローアップ支援）について

【フォローアップ支援を受け始めた年】



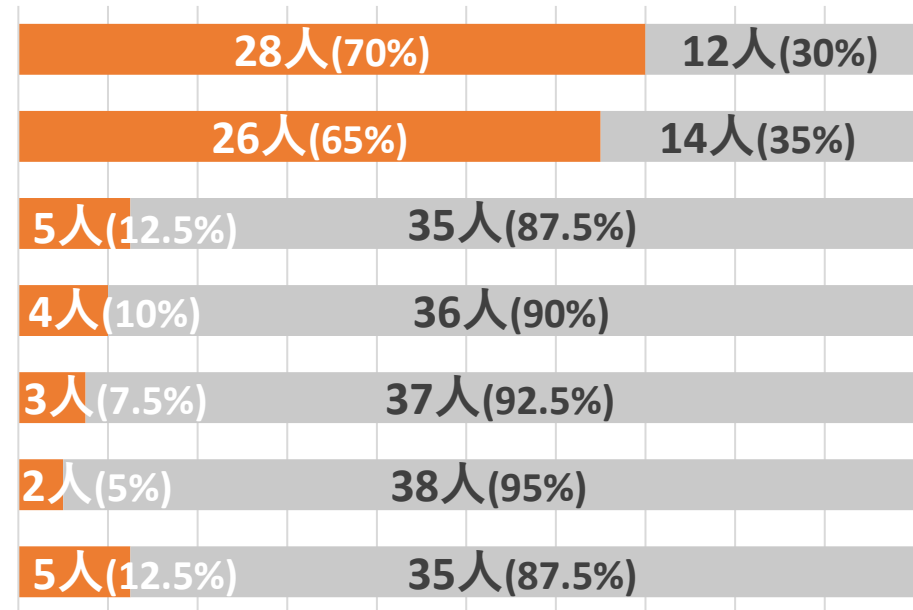
休眠預金事業が開始された2019年以降の方がほとんど。

【ウィズに来てくれた理由】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

話がしたかった
 スタッフに会いたかった
 欲しいものがある
 近くまで来たから
 困ったことがある
 なんとなく(特に理由はない)
 その他

「荷物を取りに来た」
 「満期が明け2度目の節目のお礼に」
 「カフェ」「ボランティア」「暇だったから」



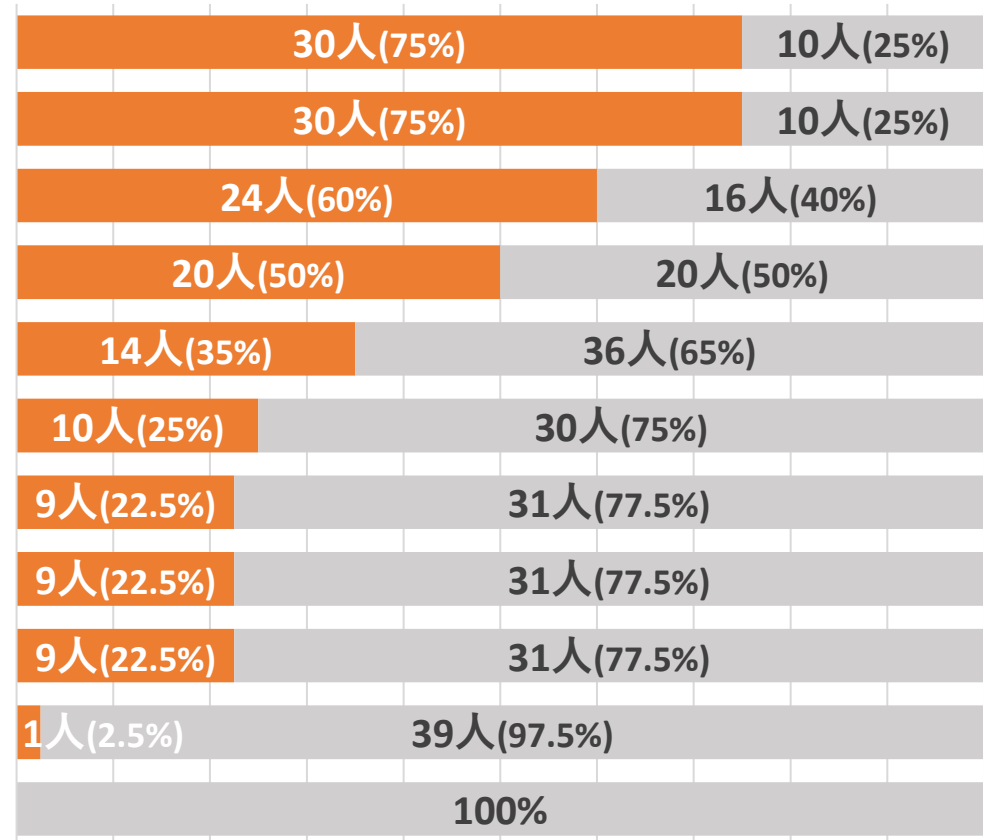
■ 当てはまる ■ 当てはまらない

「特に理由はない」や「ほしいものがある」を選択した人は少なく、
 「話がしたかった」「スタッフに会いたかった」を選択している人が多いことから、
 ウィズは回答者にとって“人と触れ合える場所”になっていることがうかがえる。

【ウィズに来てみてどうだったか】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

話せてよかった
 スタッフに会えてうれしかった
 ほっとした
 楽しかった
 明日も頑張ろうと思えた
 悩みが軽くなった
 満足した
 不安が減った
 物がもらえて良かった
 物足りなかった
 嫌な気分になった



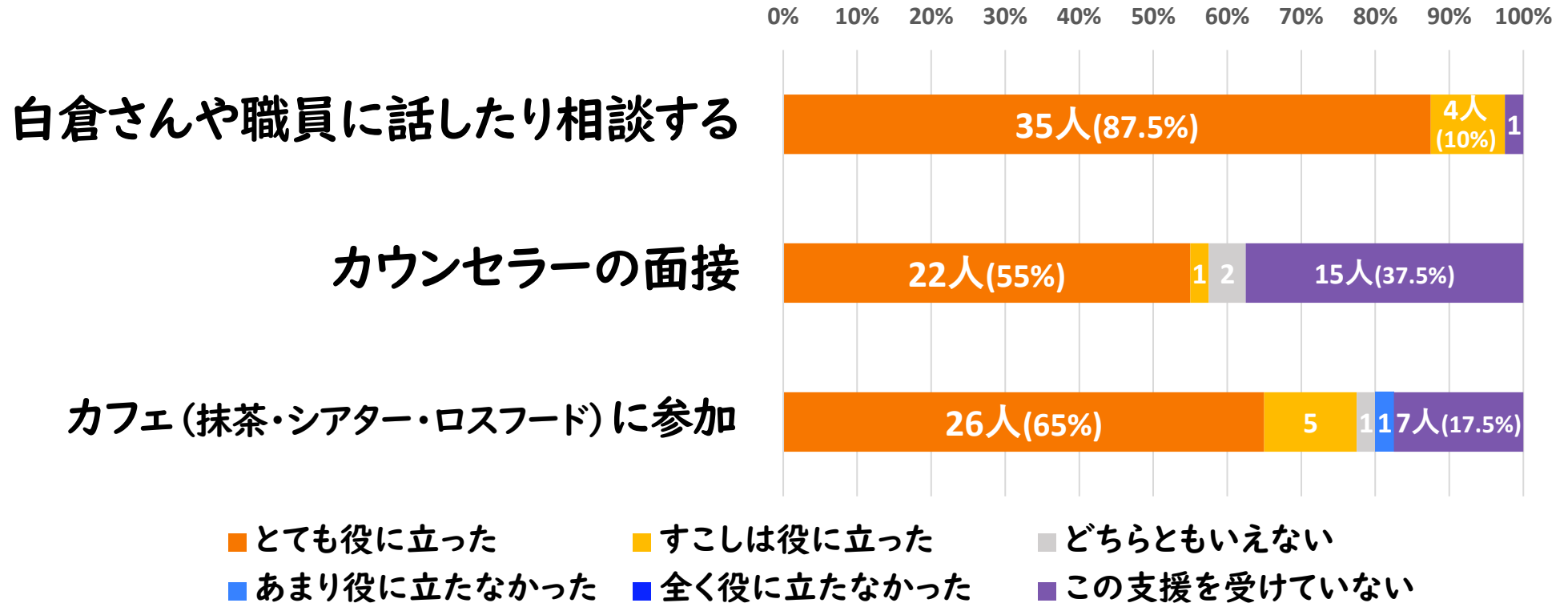
■ 当てはまる ■ 当てはまらない

その他 3人 (7%)

「今のまま存在してほしい。心の拠り所」
 「その日のスタッフ数で対応が違う」
 「ごく自然だった」

おおよそ前のスライドと類似した回答

【ウィズの支援が役に立ったか】



- 全ての支援についておおよそ「役に立った」という回答。
- 特に、「白倉さんや職員と話したり相談したりすること」については87.5%が「とても役に立った」と回答。

第3部：アウトカムの成果について

長期アウトカム
(最終アウトカム)

事業実施地域において、罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようになる

中期アウトカム
(中間アウトカム)

退所者に「自分は一人ではない」という意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活を送ることができる

この部分の達成度合いについて(一部抜粋)

短期アウトカム
(直接アウトカム)

(01) 退所者が自身の問題や課題に気が付き、不安、悩み、孤独感などが軽減され、抱えている課題が解消される

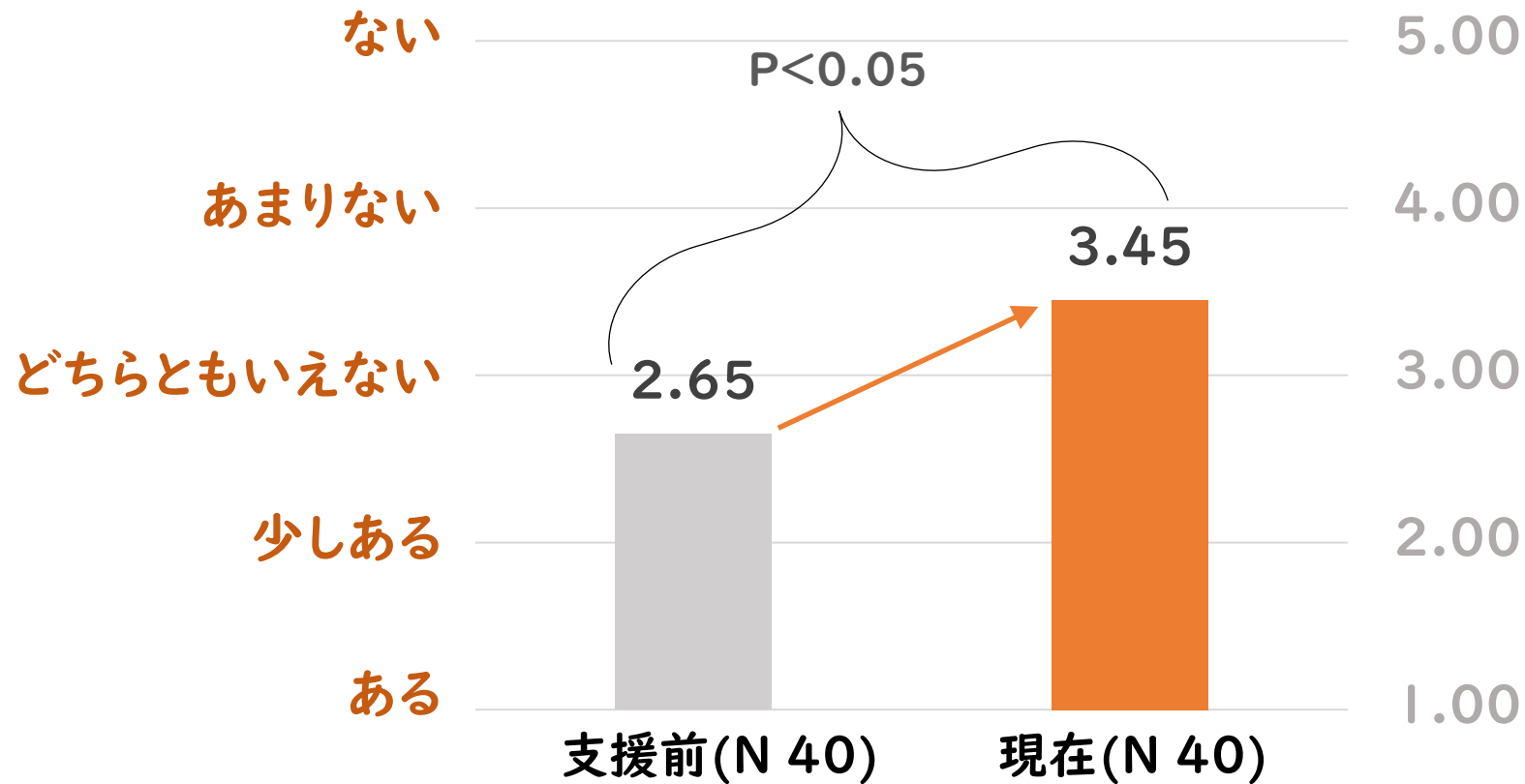
(02) 退所者が困ったときには施設に相談できるという安心感を得て、地域の人々との交流ができ、心的な安定を得られるようになる

活動
(事業実施内容)

・フォローアップ支援(心理生活相談など)
・専門的心理カウンセリングなど

・ウィズカフェ

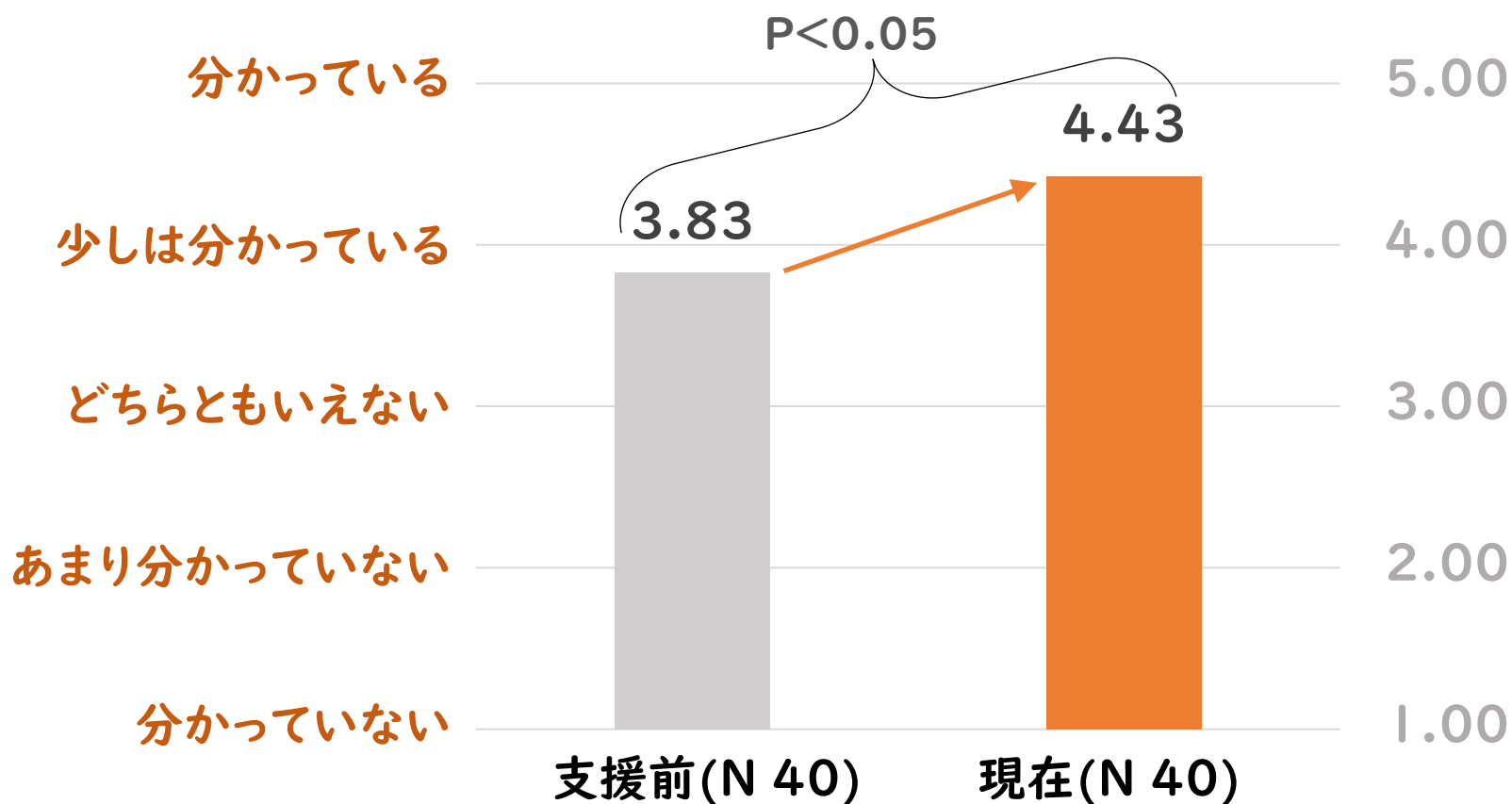
【悩みや不安について】 (対応のあるt検定)



支援前の平均値は2.65点、現在の平均値は3.45点と改善しており、**より「悩みや不安がない」状況になりつつある**ことがうかがえる。

補足 支援前の平均2.65点 (±1.73) だったのに対し、現在の平均3.45点 (±1.57) へと改善している。
(95%信頼区間-1.394~-0.206、P値=0.010)

【自分自身の課題が分かっている】(対応のあるt検定)



支援前の平均値は3.83点、現在の平均値は4.43点と改善しており、**自身の課題についての認識・理解が深まっている**ことがうかがえる。

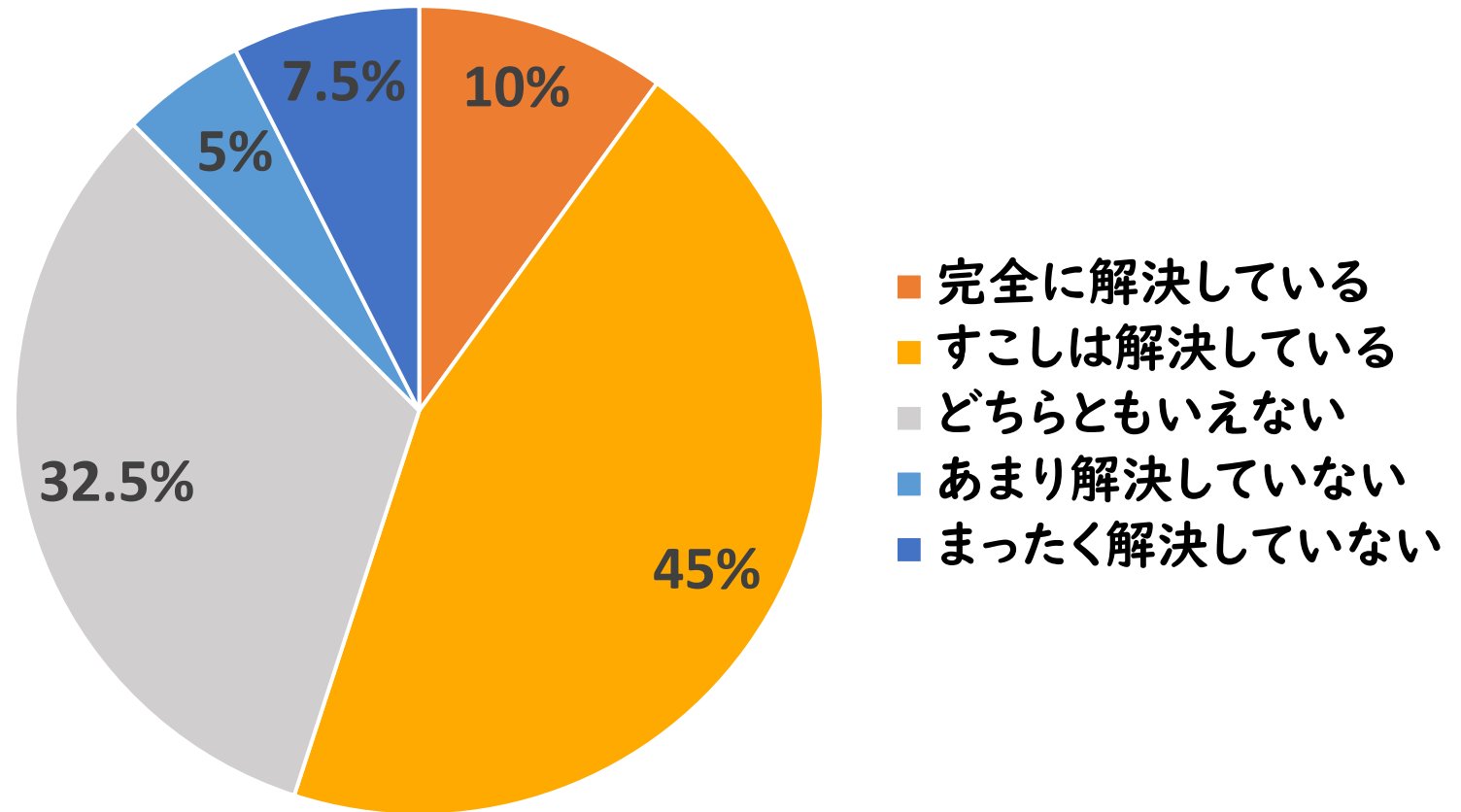
補足 支援前の平均3.83点 (±1.32) だったのに対し、現在の平均4.43点 (±0.81) へと改善している。(95%信頼区間-1.057~-0.143、P値=0.011)

【自分のわるいところは何か】 ※自由記述(40名中27名が回答)

1	自分勝手なところ
2	悪いところはない
3	ウイズに来る前は悪いことを考えていた。
4	あまり考えない
5	今は悪いと思ったら少し素直になれた。
6	人に流されやすい
7	短気な性格
8	一人で考え込んで行き詰ってしまう。
9	意思が弱い
10	考えて行動しないところ
11	投げやりになる
12	余分なことを考える
13	気が短いところ
14	しんじて騙されやすい

15	意思が弱い
16	ルーズなところ
17	感情を出して言うこと
18	時間に不規則、生活が乱れる
19	短気
20	他人の言葉に傷つき落ち込む
21	諦めが悪い
22	女癖が悪い
23	優柔不断
24	人が良すぎる
25	見栄をはって人を助けること
26	諦めが早い
27	ネガティブなところ

【自身の課題・わるいところは解決しているか】



55%の方が「完全に or 少しは解決している」と回答。

第3部：アウトカムの成果について

長期アウトカム
(最終アウトカム)

事業実施地域において、罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようになる

中期アウトカム
(中間アウトカム)

退所者に「自分は一人ではない」という意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活を送ることができる

この部分の達成度合いについて(一部抜粋)

短期アウトカム
(直接アウトカム)

(01) 退所者が自身の問題や課題に気が付き、不安、悩み、孤独感などが軽減され、抱えている課題が解消される

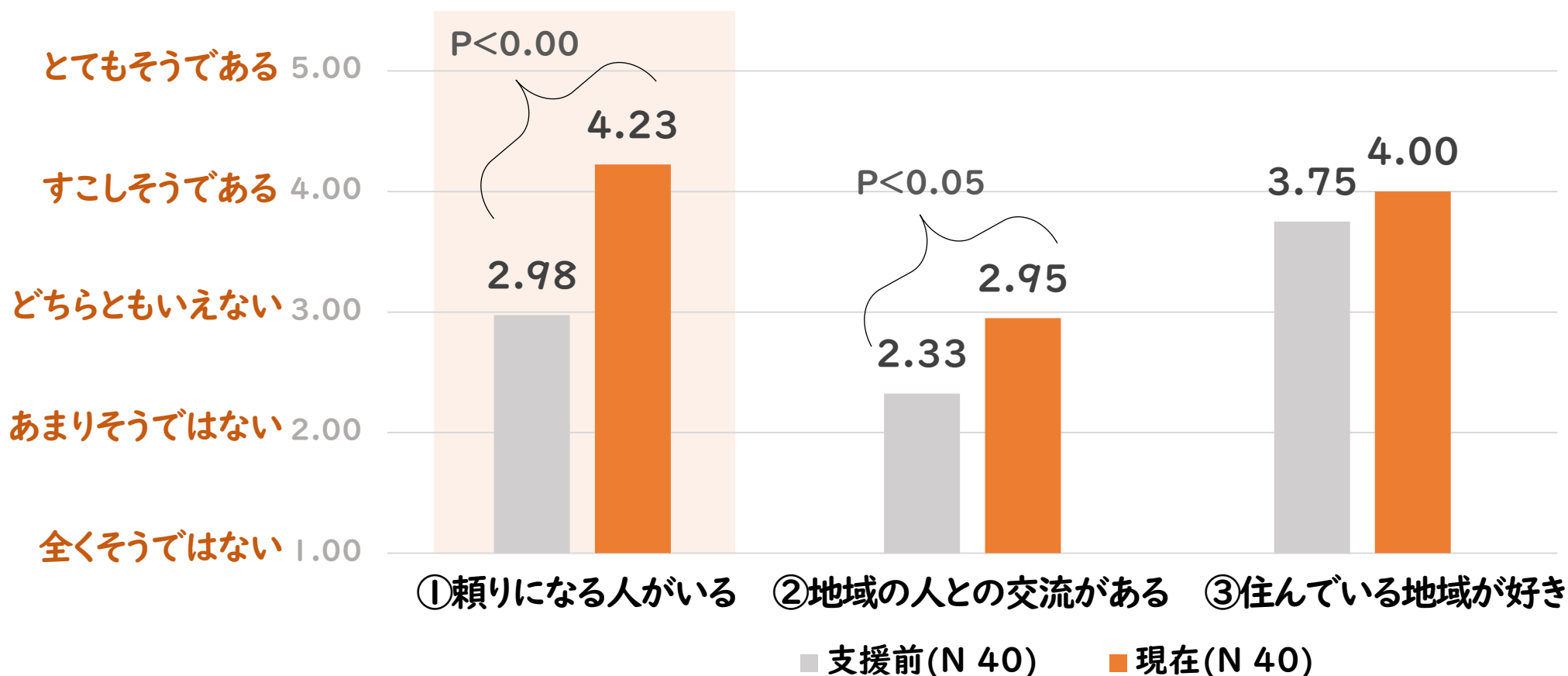
(02) 退所者が困ったときには施設に相談できるという安心感を得て、地域の人々との交流ができ、心的な安定を得られるようになる

活動
(事業実施内容)

・フォローアップ支援(心理生活相談など)
・専門的心理カウンセリングなど

・ウィズカフェ

【支援を受ける前と現在の 考えの変化】(対応のあるt検定)



「頼りになる人がいる」が大幅に改善しており、

ほとんどの方に「頼りになる人がいる」状況がつくれていることがうかがえる。

補足

- ①支援前の平均2.98点 (±1.58) だったのに対し、現在の平均4.23点 (±1.17) へと改善している。(95%信頼区間-1.796~-0.704、P値=0.000)
- ②支援前の平均2.33点 (±1.54) だったのに対し、現在の平均2.95点 (±1.60) へと改善している。(95%信頼区間-1.115~-0.135、P値=0.014)
- ③支援前の平均3.75点 (±1.08) だったのに対し、現在の平均4.00点 (±1.13) へと改善している。(95%信頼区間-0.625~0.125、P値=0.185)

【頼れる人は誰か】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

ウイズ広島の職員・ボランティア

配偶者（交際相手）

友人

仕事の関係者

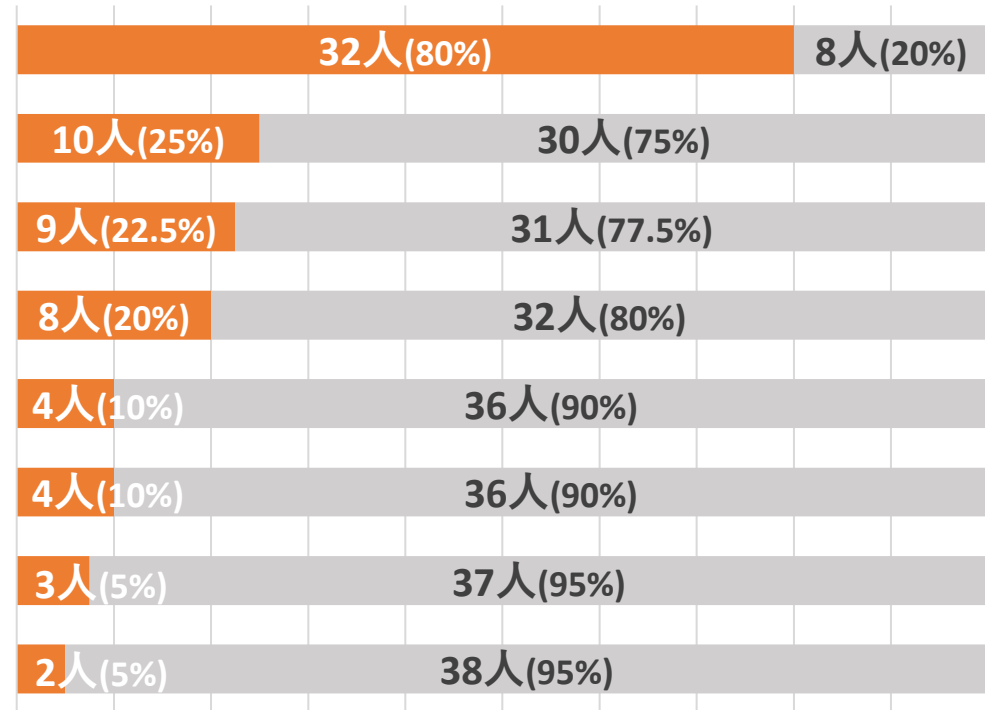
知人

親戚

その他

一人もいない

「保健センターの人」
「保護司」
「病院の先生、警察」



■ 当てはまる ■ 当てはまらない

- 回答者のほとんどは誰かしら「頼れる人」がいる様子。
- また、多くの方が「ウイズ広島」を頼れる人に選択してくれている。

第4部とまとめ：中間アウトカムの成果について

長期アウトカム
(最終アウトカム)

事業実施地域において、罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようになる

この部分の達成度合いについて

中期アウトカム
(中間アウトカム)

退所者に「自分は一人ではない」という意識が芽生え、再犯せずに地域の一員として生活を送ることができる

短期アウトカム
(直接アウトカム)

(01) 退所者が自身の問題や課題に気が付き、不安、悩み、孤独感などが軽減され、抱えている課題が解消される

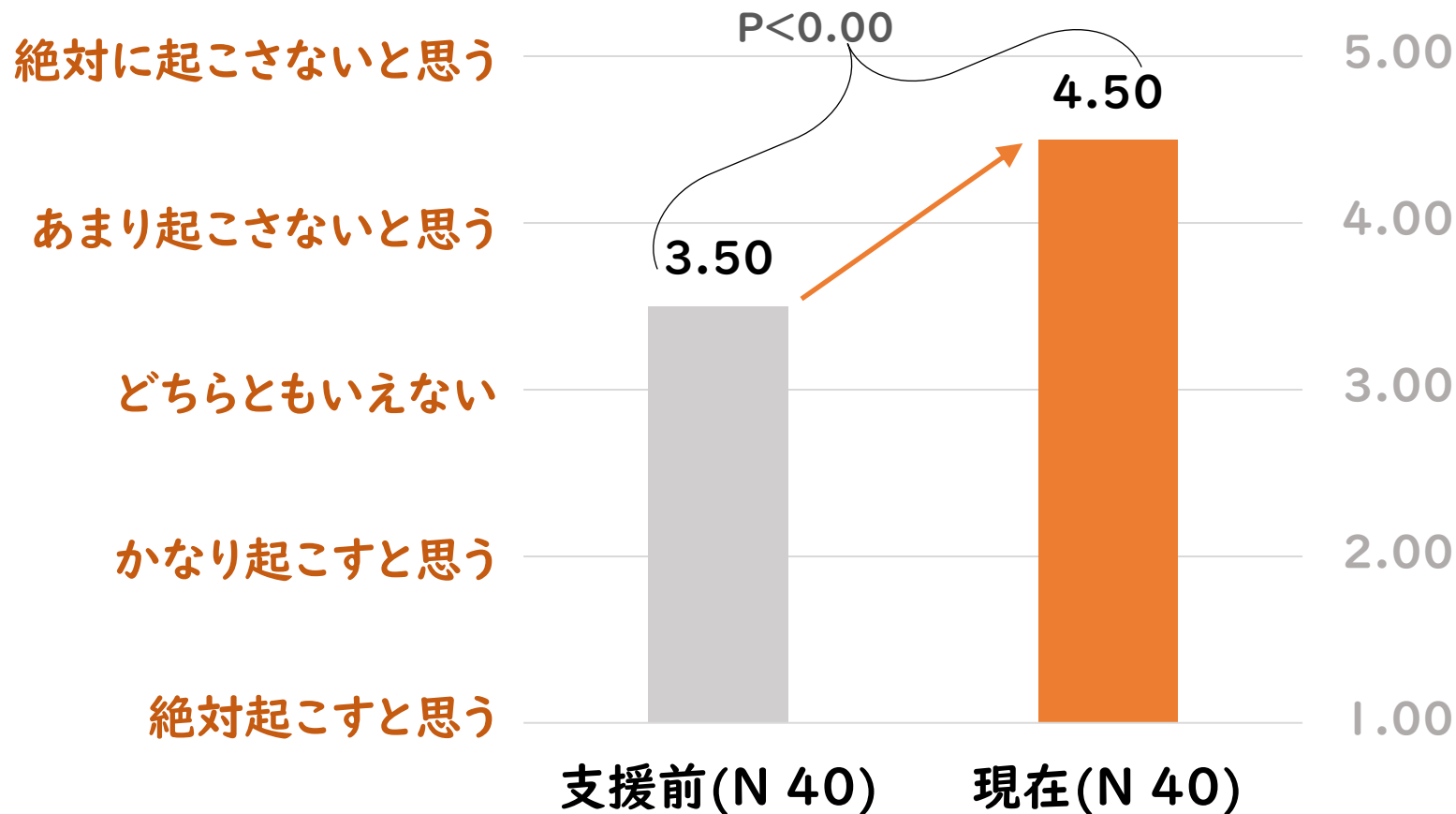
(02) 退所者が困ったときには施設に相談できるという安心感を得て、地域の人々との交流ができ、心的な安定を得られるようになる

活動
(事業実施内容)

・フォローアップ支援(心理生活相談など)
・専門的心理カウンセリングなど

・ウィズカフェ

【事件を起こすことはないと思える】(対応のあるt検定)



支援前の平均値は3.50点、現在の平均値は4.50点と大幅に改善しており、ほとんどの方に「絶対に起こさないと思えている」様子がうかがえる。

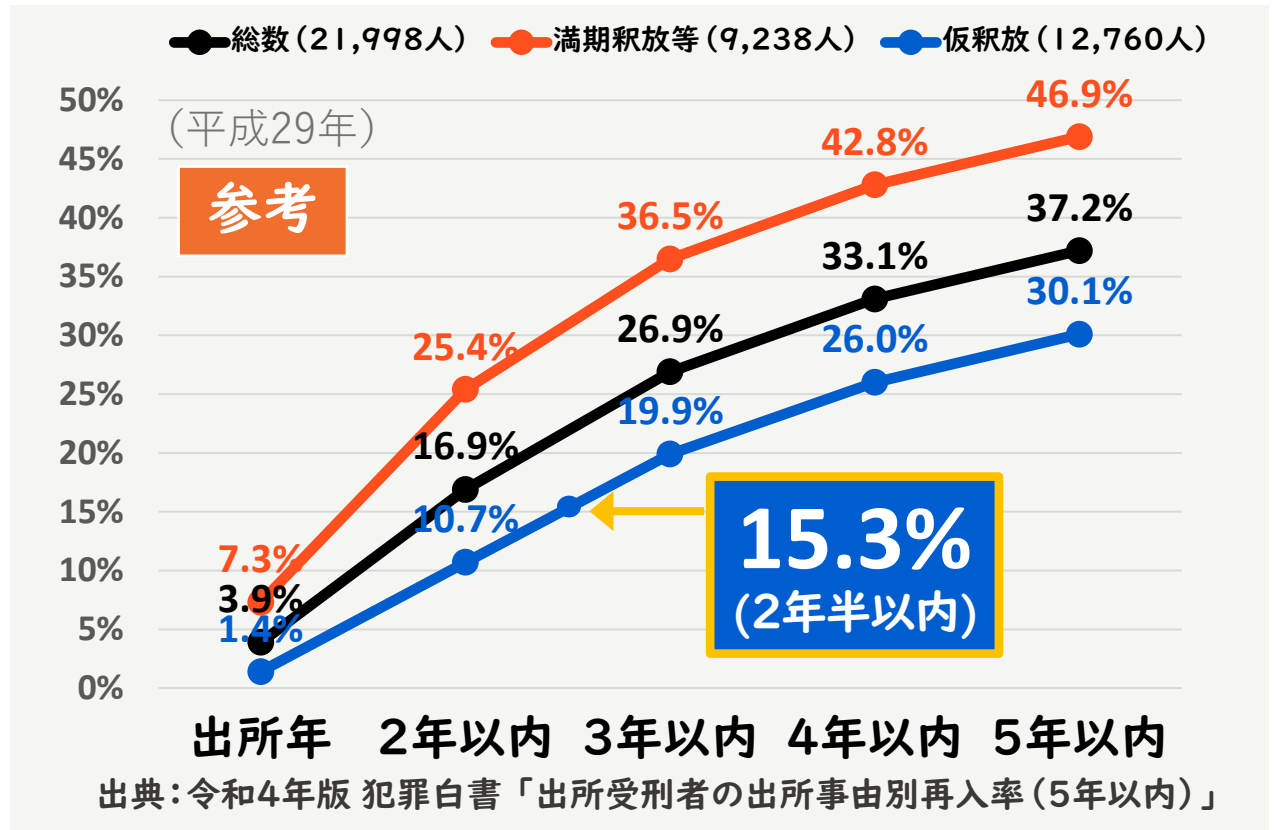
補足 支援前の平均3.50点 (±1.30) だったのに対し、現在の平均4.50点 (±0.85) へと改善している。(95%信頼区間-1.502~-0.498、P値=0.000)

【支援を受けた人の再犯率】

ウィズ広島で
2020年4月～2022年10月
の2年半で支援を受けた人の
再犯率

10.5%

※施設が把握できている件数
※対象者は主に仮釈放



国の2年半以内の再入率 15.3%※

※2年以内と3年以内の中間の数字

ウィズ広島で支援を受けた人の2年半以内の再犯率 10.5%

同条件の調査ではないものの、**平均よりも再犯率が低い結果が出ている。**